

岩崎 純一 著

『岩崎純一全集』 第一卷 「序説、総記（一）」

岩崎純一の略歴、年譜、活動総覧及びその学術の大観

編纂、監修 岩崎純一学術研究所『岩崎純一全集』編纂局

巻頭言

本巻は、『岩崎純一全集』の第一巻を成し、岩崎の略歴、年譜、活動全般について俯瞰し、主に第十巻以降に展開するその学術の全貌を大観するものである。

なお、岩崎が大学にて「伝記論」の講義を担当し始めた二〇二一年度以降、第一巻を中心に、序巻と第九巻の編纂にあたっては、『全集』編纂局は「岩崎純一伝記編纂局」とも通称している。

目次

巻頭言

第一編 岩崎純一の素性と略歴

第一部 岩崎純一の写真

第二部 岩崎純一及びJIAIの連絡先、メール等

第一章 メールアドレス

第二章 手紙等（直筆・紙媒体のもの）や物品の郵送等の場合

合

第三部 略歴

（内容を正確にご記載いただく限り、適宜組み合わせや編集の上、各媒体でご使用可。但し、可能な限りご掲載前に文面をお送りいただくことが望ましい。）

第一章 簡易版略歴 その一（大学・研究機関・書籍・学術

誌など汎用。旧サイトのプロフィールページの修正

版）

第二章 簡易版略歴 その二（大学・研究機関・書籍・学術

誌など汎用。最新版）

第三章 詳細版略歴（旧サイトのプロフィールページの修正

版）

第四章 簡易版略歴（共感覚被験者・共感覚研究者としての

紹介用）

第五章 各法人法に基づく岩崎の職階名

第六章 学校教育法に定められない岩崎の一条校（大学、高

等学校等）、専修学校、各種学校、研究機関等における特別の職階名

る特別の職階名

第四部 岩崎純一のシンボル

第一章 アーカイブ及びウェブサイトのサブタイトル

“Niches of Episteme”（知のすきま）の意味について

第二章 シンボルマーク「唯識ピラミッド」について

第二編 活動総年表

第一部 活動総年表の見方

第二部 活動総年表

序章 一九八二（昭和五十七）年 ○歳

第一章 一九八三（昭和五十八）年 ○歳～一歳

第二章 一九八四（昭和五十九）年 一歳～二歳

第三章 一九八五（昭和六十）年 二歳～三歳

第四章 一九八六（昭和六十一）年 三歳～四歳

- 第三編 岩崎自身が主宰した旧学術サークルの JIAI の内部組織への移管表
 - 第四編 岩崎以外の者が主宰する岩崎関連サークル (JIAI の外部組織) の活動年表
 - 第一部 岩崎純一さんに会いたい会
 - 第二部 岩崎純一さんのお話を聴く会
 - 第三部 岩崎純一さんとの合同勉強会
 - 第五編 岩崎純一の学術的見地
 - (言語学との関連が深いことから、第八十巻の「岩崎式言語体系ペディア」に臨時掲載済み。重複コンテンツとなる予定。)
 - 第一部 岩崎純一に肯定的影響を与えた理論・学説
 - 第二部 岩崎純一が立脚・採用していない理論・学説
 - 第六編 岩崎純一の言語の著作物の頻出用語
 - (特設サイト方式・非アーカイブ方式が終了した二〇一七年十二月三十一日までの全著作物について)
 - 第一部 人文科学、社会科学及び芸術、文化、言語、文学用語
 - 第二部 科学技術、産業用語
 - 第七編 岩崎純一が考案した用語と概念
 - 第八編 岩崎純一が考案した用語と概念
 - 第九編 岩崎純一が考案した用語と概念
- (第七、九編も、言語学との関連が深いことから、第八十巻の「岩崎式言語体系ペディア」に臨時掲載済み。重複コンテンツとなる予定。)

第一編 岩崎純一の素性と略歴

二〇〇四年一月十日 起筆
二〇〇四年四月二十四日 公開
二〇一一年三月八日 大幅改訂
二〇一七年六月十日 大幅改訂
二〇一七年九月二十四日 大幅改訂
二〇一八年五月十七日 改訂
二〇一九年八月八日 最終改訂

第一部 岩崎純一の写真



第二部 岩崎純一及びIJAIの連絡先、メール等

二〇〇四年一月十日 起筆
二〇〇四年四月二十四日 公開
二〇一七年十月十六日 改訂
二〇一八年四月十九日 最終改訂

第一章 メールアドレス

岩崎純一へのあらゆるご連絡、お問合せ（協力申請、協力要請、仕事依頼、実験参加依頼、相談、質問等）は、次のメールアドレス宛にご送付いただきたい。または、メールフォームも適宜利用されたい。

● 岩崎純一の個人メールアドレス（岩崎のみに届き、岩崎が返信する。ご相談、ご質問、私信等にご利用されたい。）

iwasaki.j@iwasakijunichi.net

● IJAIの公式メールアドレス（研究所本部と右の岩崎のアドレスに届き、岩崎またはスタッフが返信する。学術関係のご連絡、仕事のご依頼等にご利用されたい。）

office@iwasakijunichi.net

● メールフォームもサイトに設置している。（岩崎のみに届き、岩崎が返信する。初めてのご利用者・ご依頼者は、メールフォームのご使用が便利である。）

※ メールソフトをご使用で、アドレスを直接クリックしてもメールソフトが立ち上がらない場合は、適宜メールソフトを立ち上げてからコピー&ペーストするか、メールフォームを利用されたい。

※ 通常のメールやメールフォーム以外に、岩崎が登録しているソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）であるTwitterやmixiのメッセージにてお送りいただいても差し支えない。

※ 岩崎や研究所からの返信が受信されない場合は、次の注意事項を確認の上、再度送信いただければ幸いです。

● 項 【お願い】岩崎や研究所からの返信メールが未達の方向けの注意事項

● お問合せに使用される携帯端末やアドレスで、パソコンからのメールの受信を拒否設定にされている場合、解除していただくか、前述のアドレスからのメールを指定受信されたい。

（返信が受信されないというお問合せを多々受けるが、その原因のほとんどがこれである。）

なおも岩崎からの返信が受信されない場合は、Twitterやmixi

のメッセージにてお送りいただきたい。

第二章 手紙等（直筆・紙媒体のもの）や物品の郵送等の場合

時に利用者（とりわけ、ウェブサイトへの訪問者や拙著の読者等）から手紙等を頂くことがあり、大変嬉しい限りであるが、岩崎は一般人・私人であり、原則として以下の二つの方法がとられているため、参照されたい。

● 岩崎宛てに直接送付される場合

岩崎宛てに直接送付することを検討される場合、まずはメールアドレス宛てに、その旨を記した文面を送信されたい。その後、送り先を岩崎が返信させていただくものとする。

知己の者や過去の交流会等の参加者で、送り先を把握されている場合は、この手続きを省略して手紙等をご送付下さって差し支えない。

● 出版社を通す場合

岩崎個人への送り先を把握されていない利用者から、宛名のみを「岩崎純一」として拙著の出版社の住所宛てに送られた手紙は、出版社の担当者より岩崎宛てに郵便などで転送される。

氏名と住所を記さずニックネームやイニシャルでも届くが、岩崎からの確実な返信を希望される利用者は、出版社を通す場合も

氏名と住所の記入をお忘れなきようお願い申し上げます次第である。

また、次の点にも留意されたい。

● 未返送・未転送・散逸のおそれについて

出版社以外（岩崎が講義を行った大学・研究機関等）に送られた「岩崎純一」宛てのものは転送される保証がなく、破棄される場合もあるため、注意されたい。

せっかくお送りいただいたものは拝読したいと考えている。岩崎宛てに直接お送りいただくことが、何よりも確実である。

第三部 略歴

（内容を正確にご記載いただく限り、適宜組み合わせや編集の上、各媒体でご使用可。但し、可能な限りご掲載前に文面をお送りいただくことが望ましい。）

二〇〇四年一月十日 起筆

二〇〇四年四月二十四日 公開

二〇〇七年十二月十日 改訂

二〇一一年三月八日 改訂

二〇一七年十月十六日 改訂

二〇一八年四月十九日 改訂

二〇一九年五月二十日 改訂
二〇二〇年五月十日 最終改訂

第一章 簡易版略歴 その一（大学・研究機関・書籍・学術誌など汎用。旧サイトのプロフィールページの修正版）

昭和五十七年（一九八二年）岡山県生まれ。東京都在住。

岡山白陵中学校・高校 卒業

東京大学教養学部 中退

現在 岩崎純一学術研究所 (IYCI) 所長、一般財団法人事務局長、学術団体監事、大学非常勤講師

長らくフリー（在野）の立場で、文理系や産学官民を問わず、様々な学術・芸術分野および、およそ五十の大学や研究機関、各種施設、各種媒体において研究、執筆、制作、著作、講義、ゼミ、特別講座、講演、講話会、実験協力などの活動を行う。現在は、前述の立場で同様の活動を行う。

（とりわけ人文、哲学、美学、和歌、国語学、言語学、精神病理学、社会学、数理論理学、超数学の分野）

第二章 簡易版略歴 その二（大学・研究機関・書籍・学術誌など汎用。最新版）

■ 岩崎純一

- ◆ 一九八二年、岡山県生まれ。
- ◆ 岡山白陵中学校・高校 卒業
- ◆ 東京大学教養学部 中退
- ◆ 現在 岩崎純一学術研究所 (IJAI) 所長、一般財団法人事務局長、学術団体監事、大学非常勤講師

■ 岩崎純一学術研究所 (Iwasaki Junichi Academic Institute, IJAI)

- ◆ 「岩崎純一総合アーカイブ」
(Iwasaki Junichi Comprehensive Archive, IJCA)
- ◆ 『岩崎純一全集』(Iwasaki Junichi Complete Works, IJCW)
- ◆ 「岩崎純一学術図書館」
(Iwasaki Junichi Academic Library, IJAL)
- ◆ 「岩崎純一芸術団」(Iwasaki Junichi Art Group, IJAG)
- ◆ 「岩崎式十進分類法」
(Iwasaki Junichi Decimal Classification, IJDC)

● ウェブサイト (右記の大部分を無料提供)

<https://iwasakijunichi.net/>

岩崎は、IJAI 所長のほか、財団事務局長、大学非常勤講師・特別講師・招聘講師、学術団体監事などを務める。大学では東洋哲学、和歌・歌道、共感覚、言語障害、人工言語などを講義している。

IJAI は、岩崎とスタッフら (巫女や歌道子女など) が展開する横断的・超域的な学術活動を IJDC に基づき自ら束ねる私設学堂で、学術機関リポジトリとして IJCA、IJCW、IJAL を編纂・構築し、大部分を無料で提供している。また、一自然人・個人の横断的な学術活動・知的財産と国内法との関係も研究している。

スタッフ (共同編纂者) の多くは神道や和歌を基盤に持つ巫女や歌道子女であるが、IJAI としては、フーコーのエピステーメーから造語した「知のすきま」(Niches of Episteme) を標榜して学術のニッチ分野を積極的に探究し、仏教の唯識論を模した「唯識ピラミッド」をシンボルマークとしている。

不明点はお問合せ下さい。スタッフ採用は岩崎から声かけ。

第三章 詳細版略歴(旧サイトのプロフィールページの修正版)

一九八二年、岡山県生まれ。

東京大学にて、哲学(ショーペンハウアー、キルケゴール、ニーチェ以降の「生の哲学」)、「反哲学的」哲学、実存主義哲学、構造主義哲学(、東洋思想・仏教哲学(やまとごころ・中観・唯識・禅など)、日本の古典(特に和歌)、言語学、精神病理学、マックス・ヴェーバー社会学、近現代の国体論(立憲君主制、天皇親政、天皇機関説、

共和制など）、象徴派・世紀末芸術、クラシック音楽・雅楽・昭和の歌謡曲、数理論理学・超数学・理論物理学などを研究。

既存の東京大学・学会（学界）・学校教育などにおいてできることと自らの学的・心的関心や感受性の探究欲求を天秤にかけて結果、「自分や人間、人間社会そのものを学閥の外側で研究する」ことに全精力を注ぐため、東大を中退。

中退直前に、ニーチェとワグナーと日本の政体・天皇に関する論文など、大学時代の文筆を破棄。これ以降、西洋哲学の探究を継続しながらも、座右の銘を「日本的・東洋的実存」、「超然主義」、「嗚呼玉杯」の「榮華の巷低く見て」の歌詞、「荒城の月」の歌詞、藤原定家の日記『明月記』の「紅旗征戎吾が事に非ず」などとする。

その後、家庭教師や作曲業をしながら、六義園、三溪園、偕楽園などの日本庭園や京都を一人で巡り、和歌を詠み、思索を深める日々を送る。この間、哲学書のほか、古典和歌集（『万葉集』、勅撰集、私撰集、私家集）の戦前から昭和の版を神保町の古本屋などで探し、私蔵する。また、言語学の書物および30か国語を超える世界の言語の辞典も蔵書とするに至る。

並行して、美術館巡りをするも、似たような美術展に飽き足らず、クノップフやジャン・デルヴィル、スピリアールト、モロー、レヴィ・デュルメル、ベックリンなどの暗黒の象徴派・耽美派絵画や、デルヴォーの幻想絵画、ブーグローやアルマ・タデマの写実的美麗画、ミハイル・ヴルーベリやミハイル・ネステロフ、ヴィクトール・ポリソフムサトフなどのロシア象徴派絵画、日本画や水墨画、仏

教画などの画集を渉猟する。

自身のウェブサイトを複数数のブログ「岩崎純一のウェブサイト・ブログ」を開設し、自分の持つ共感覚と呼ばれる知覚を公表。東大・東工大・筑波大・専修大などの自然科学分野から依頼され、被験者または研究者として実験協力を行い、この知覚が検証される。また、東大・東京藝大・早稲田大・日大・昭和女子大・大妻女子大などの人文・社会・芸術系分野から依頼され、文芸・美術における知覚・共感覚表現や文化・生活・家政についての講義を行う。著書も出版される。

さらに、十年以上に渡り、世界保健機関のICDやアメリカ精神医学会のDSMに規定される精神・発達・行動関連障害を抱える三百人以上のサイト訪問者たちと面識を持ち、交流。発達障害者・学習障害者のサークルや性被害・DV被害女性の専用居住施設にも招聘され、交流・講話を行う。また、主にこれらの発達障害男性や被害女性らが日記、手記、創作物語、手帳、予定表、カレンダーのメモ、考案者とのメール、性被害・DV被害などに伴う刑事・民事訴訟の秘密裏の準備草稿に用いる岩崎式日本語を考案、これらの人たちに提供する。

神社の巫女や伝統的な家系の子女の皆様と伝統和歌の会「余情会」を立ち上げて和歌を詠むほか、私家集『新純星余情和歌集』や「旧派歌道流派・家元総覧」の制作も続ける。また、地方の神社や地元の方々から依頼を受けて、和歌の解説・解釈に取り組む。

聴覚や共感覚の鋭さを生かして、街中に設置されている超音波装

置（動物駆除装置、パーキングメーターなど）の公害の有無を調査するため、超音波知覚者コミュニティ東京を設立。コウモリの超音波研究者の協力を得てフィールドワークを行う。

サイトの運営開始から現在までの間に共感覚ブームが起き、危険ドラッグなどを使用して共感覚体験を得る者に出会う機会が増えたことから、いっそう大学の学閥における共感覚研究界を離れ、日本共感覚研究会（旧 日本共感覚関連動向調査会）を設立。共感覚を巡る日本社会の実態の調査・追跡活動を行う。

前述の女性施設の居住者のほか、学生、OL、主婦、発達障害者の男性たちによって、岩崎純一さんのお話を聴く会、岩崎純一さんに会いたい会、続 岩崎純一さんに会いたい会、岩崎純一さんとの合同勉強会が形成される。大学の講堂や施設の共用スペースに呼ばれて、講話を行う。

面識を持ったサイト訪問者と共に個人交流会・勉強会もひらく。部班制への改組などの動きを経たのち、岩崎純一学術研究所として活動全体のまとまりを見た。

趣味は、散歩、四季折々の風景や動植物を眺めること、将棋、音楽（クラシックもロックも演歌もほぼ何でも。しかし、最近のJ・P・OPには詳しくない）、絵画鑑賞、庭園めぐり、和歌、F1のテレビ観戦など。詳しくは、好きな物事・趣味のページに掲載。

第四章 簡易版略歴（共感覚被験者・共感覚研究者としての紹介）

一九八二年、岡山県生まれ。幼少期より成人の今に至るまで持ち続けている特殊な感覚が、生理学上、「共感覚」と呼ばれるものであることを二十歳の頃に知り、学会などでの講演活動、大学非常勤講師・特別講師・招聘講師などとしての「共感覚論」の講義、学術・芸術関連雑誌の執筆などを行う。財団法人事務局長などのかたわら、フリーの立場で研究。日本における共感覚論の意義や文化人類学的な共感覚論の意義について、初著『音に色が見える世界 「共感覚」とは何か』（PHP新書、二〇〇九）や『私には女性の排卵が見える・共感覚者の不思議な世界』（幻冬舎、二〇一一年五月末）にまとめた。

第五章 各法人法に基づく岩崎の職階名

次に掲げる岩崎の職階名は、岩崎を第三者に紹介する際に自由に記載して差し支えない。

一般財団法人事務局長
学術団体監事
大学非常勤講師

第六章 学校教育法に定められない岩崎の一条校（大学、高等学校等）、専修学校、各種学校、研究機関等における

特別の職階名

岩崎の中心となる職（職務上の専門分野）は、右に掲げる通りであり、財団法人の総務・事務、公益法人制度関連業務、内閣府公益認定等委員会との折衝、学術団体の監査、大学教育等である。

次に掲げる岩崎の職階名は、学校教育法に定められる大学の職階名（教授、准教授等）、高等学校や中学校の職階名（教諭等）ではなく、これまでに岩崎を教育者、講演者、研究者等として特別に招聘したおよそ五十の学校・研究機関（第四巻に記載）の側が岩崎について称するもので、岩崎と交わした契約書や同意書、または岩崎が受領した依頼書の記載を転載したものにすぎないため、留意されたい。岩崎を第三者で紹介する際にこれらの特称を用いようとする者は、岩崎または第四巻に掲げる各大学等に相談いただくことが望ましい。

なお、岩崎は、主に一条校、専修学校（学校教育法第二百二十四条）、各種学校（同法第三百二十四条）、研究機関等からの協力要請を受け付けている一方で、ディプロマミルであることが疑われる非認定学校や団体からの協力要請は、原則として受け付けない。

※ 講義・ゼミ・特別講座・講演・講話会における立場

講師、講演講師、特別講師、招聘講師、特別招聘講師、高等教育講師、ゲスト講師、ゼミ講師、講座講師、短期講師

※ 研究・実験・学術論文における立場

研究協力者、実験協力者、協力者、研究アドバイザー、講師、実験講師、被験者、共感覚者、共感覚当事者、共感覚保持者

● 学校教育法において、「高等教育」とは大学・高等専門学校等の教育を指し、高等学校の教育は中等教育であるから、留意されたい。多くの教員が、岩崎への依頼段階においては誤用している。従って、岩崎が高等教育講師として要請された高等教育が大学の特別教育であるか高等学校のそれであるかについて、岩崎が保管する正確な契約書に基づく岩崎の回答を得たい場合は、随時岩崎に問い合わせよ。

● 岩崎の学歴はあくまでも「東京大学教養学部中退」である。岩崎を紹介する際に、これを誤って（偽って）「東大卒」とするなど、誤称とならないよう、また意図して詐称しないよう、注意されたい。

● 大学の勤務者・所属者に与えられる「教授」、「准教授」、「講師」、「助教」、「助手」等の職階のうち、岩崎が着任していない職階の名称を用いて岩崎を紹介してはならない。但し、「非常勤講師」については（これを岩崎が委嘱された期間中は）除く。

● 一般的な「講演講師」の意味で「講師」の名称、数週間や数ヶ月間の「短期の講師」や「臨時の講師」の意味で「非常勤講師」や「特別講師」の名称が与えられる等、大学の都合により、法律の定義と異なる定義でこれらの職階名が岩崎に適用されている

場合は、そのまま用いて岩崎を紹介して差し支えない。

● ある大学の「招聘講師」が他の大学の「特別講師」、ある大学の「ゼミ講師」が他の大学の「特別招聘講師」に該当する等、大
学間で名称に整合性・一貫性がなく、大学の都合により、これら
の名称が岩崎に適用されている場合も、そのまま用いて岩崎を紹
介して差し支えない。

● このほか、不明点については、岩崎または第四巻に掲げる各大
学等に随時間い合わせよ。

第四部 岩崎純一のシンボル

二〇一四年十二月十八日 起筆

二〇一五年一月十七日 攔筆、公開

二〇一九年四月八日 更新（追記とある部分。第一章のタイトル
にも「アーカイブ及び」を追記。）

二〇一九年六月三日 最終更新

第一章 アーカイブ及びウェブサイトのサブタイトル

“Niches of Episteme”（知のすきま）の意味について

サイト運営十一年目および共感覚の公表十年目を迎えた二〇一五
年より、サイトのサブタイトル“Niches of Episteme”（知のすきま）
を追加しています。

（二〇一九年四月八日追記：現在は、サイトのみならず、IJCA、IJCW、
IJAL、IJDC全体のサブタイトルであり、岩崎とIJAIの活動全体の
標語となっています。以上、追記終わり。）

“niche”（ニッチ）とは、元は西洋建築の壁龕（へきがん。壁のく
ぼみ）を言い、転じて「生態的地位」を意味する生態学用語や、「ト
ンネル・橋などの脇の退避場所」を意味する建設・設計業界の用語
となっています。最近は主に、「他社が進出していないすきま産業」
などの意でビジネス用語として使われることが多くなっています
（「ニッチ産業」、「ニッチ市場」、「ニッチ戦略」など）。一方で、「大
衆の注目を浴びず、一部の研究者やマニアだけが好む学術や文化の
分野」の意でも使われるようになっていきます（「ニッチな分野」など）。

“episteme”（エピステマー）とは、ミシェル・フーコーが提唱
した概念で、「ある時代の人々の知識の総体・枠組」を表し、日本語
では単に「知」や「科学」と訳されます。「科学」と言っても、一般
に思われているような理系的サイエンスとしての科学の枠組ではな
く、「人文科学」「社会科学」「自然科学」などの学問から「常識」「倫
理」などをも含めた、常に変化し増殖する知の体系の総称であり、
哲学・社会学用語です。

そして、私のサイトで扱っている学術内容は、一般国民にとって
はもちろん、大学などの研究・教育現場にとってさえ、ニッチなも
のであることは否めません。私の活動は、もっぱら私自身の私費や
小規模のご寄付による在野での研究、趣味、副業などの形をとって
おりますが、いずれも労働ではなく、生涯の仕事（ライフワーク）

であると思っております。

ここ十年間で、東日本大震災や政権交代を挟み、時代と社会は大きく変わりました。日本は今後ますます、少子・高齢・晩婚化社会を加速させていくこととなります。私のサイトへのご訪問者の方々も、私自身も、皆が皆、このような時代と社会、そしてこの地球の構成員であるわけです。このような構成員たる日本人・人間が、何に飢え、何に満ち足りすぎて、この私のサイトを訪れて下さっているかは、十年もサイト運営を続けていれば分かります。

こうしてみると、私のサイトも、最初は単なる趣味で始めた個人サイトでありながら、“episteme”（エピステーメ）の枠組という時流に良くも悪くも巻き込まれているのだと改めて実感しています。そのような時流の中でも、多種多様な仕事を頂けるようになったことは、本当に幸せなことでもあり、不思議なことでもあると痛感しております。

フーコーは、“episteme”（エピステーメ）が変化すること、そしてその変化の皮肉さ、理不尽さをも見抜いて、多くの著作で言及しています。

今一度、「知のすきまにある知」を扱ってきたこのサイトの内容に矜持を込めて、サブタイトルを“Niches of Episteme”（知のすきま）としました。可能な限り、このサイトの運営を続けていく所存です。そして、「知のすきま」(“Niches of Episteme”)を埋める、日本の新しい学術的理想郷を目指す所存です。

第二章 シンボルマーク「唯識ピラミッド」について

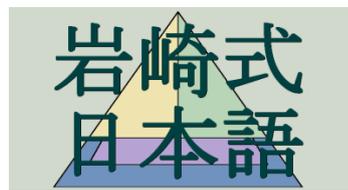
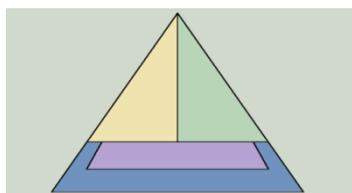
サイトのピラミッド型のシンボルマーク「唯識ピラミッド」は、私が大学時代に「中観思想」と共に学んだ仏教の一派である「唯識思想」をもとに、作成し命名したものです。大乘仏教の領域に限れば、私一人の最終目標が中観の悟りであるにせよ、この巨大なJICAを編纂するさなかにあつては（すなわち、ほぼ生きている間は）、「職場・仕事との関係や様々な人間関係・しがらみに悩まされながら、これを編纂する自己（「識」）を否応なしに強固に設定せざるを得ない」という現実が、根拠となっております。

土台となる青い部分（識の深層）が「阿頼耶識（あらいやしき）」を、紫色が「末那識（まなしき）」を、黄色が「意識」を、緑色が「前五識」を、それぞれ表しています。

また、この唯識思想を図示するにあたりピラミッド型を用いた理由は、私の故郷である岡山県岡山市にある芥子山（けしごやま）をモチーフとしたためです。芥子山は、私が幼い頃からよく登っては神道的・仏教的気分浸っていた山であり、IAIにご参加下さっている多くの巫女の方々の鬼神道や巫女舞の拠点の一つでもあります。これについては、巫女神道や歌道の資料で解説しています。芥子山は「備前富士」と形容され、後樂園の借景ともなっています。

唯識ピラミッドは、平面画像では二等辺三角形に見えますが、別掲の3DCG画像・映像では四角錐の形になっています。

このマークは、主に岩崎式言語体系の関連ページで見かけること



が多いと思いますので、探してみてください。
(二〇一九年四月八日追記：現在は、サイトや言語体系のみならず、IJAI、IJCA、VOCI、WCI、IJCW、IJAL、IJDC 全体のシンボルマークとなっています。以上、追記終わり。)

第二編 活動総年表

二〇〇四年一月十日 起筆
二〇〇四年四月二十四日 公開
二〇〇七年十二月十日 大幅更新
二〇一一年四月三日 大幅更新
二〇一一年四月二十五日 大幅更新
二〇一七年七月二十四日 大幅更新
二〇一七年八月十四日 大幅更新
二〇一七年九月七日 大幅更新
二〇一七年九月二十五日 大幅更新
二〇一七年十月三十日 大幅更新
二〇一八年十月十一日 更新
二〇一八年十一月二十四日 更新
二〇一八年十二月十五日 更新
二〇一九年一月一日 更新
二〇一九年二月九日 更新
二〇一九年三月三十一日 更新
二〇一九年五月十六日 更新
二〇一九年十月二十六日 更新
二〇一九年十一月二十八日 更新
二〇一九年十二月三十一日 更新

二〇二〇年四月二十一日 更新
二〇二〇年五月十日 更新
二〇二〇年六月二十八日 更新
二〇二〇年九月五日 更新
二〇二〇年十二月十二日 更新
二〇二一年二月二十七日 更新
二〇二一年三月十五日 更新
二〇二一年八月十八日 更新
二〇二一年十一月一日 更新
二〇二一年十二月二十七日 更新
二〇二二年四月十五日 更新
二〇二二年十二月二十六日 更新
二〇二三年五月十四日 更新
二〇二三年十月二十八日 更新
二〇二四年二月十一日 最終更新

第一部 活動総年表の見方

◆ 岩崎純一の活動年表を JDOC に従って掲載する。岩崎の活動は、次の通り極めて多岐に渡り、随時俯瞰的整理を行うものとする。

▽ 学者・教員・研究者・学生などからの依頼を受けて行う大学・研究機関などでの講義・ゼミ・特別講座・講演・学会

発表・研究会・講話会・座談会、共感者・被感者・共感者・研究協力、研究・著作・執筆・学術誌等への寄稿・論文、総合学術・総合芸術活動、学術・芸術サークル活動、芸術作品の制作、芸術作品への出演、メディア・市販雑誌・ウェブマガジン・テレビへの取材協力、トークライブへの出演、女性専用施設からの依頼を受けて行う研究会・講話会・座談会、システム構築・ウェブサイトを運営など

● 年表中の各活動に付された墨付き括弧【】内の略称の意味は、次の通りである。各活動の詳細は、主に【】で示された十巻のいずれか一巻に、または複数の巻に跨がって収録されているが、これ以外の巻にも収録されている場合がある。

- ▼ 【総】…主に総記十巻に関する活動
- ▼ 【人一】…主に人文科学（一）十巻「哲学、宗教、歴史、地理」に関する活動
- ▼ 【人二】…主に人文科学（二）十巻「心理、精神、身体、生命および倫理、道徳、人間学」に関する活動
- ▼ 【社一】…主に社会科学（一）十巻「政治、社会、国民生活」に関する活動
- ▼ 【社二】…主に社会科学（二）十巻「個人・自然人と国家内人間集団・共同体および超国家集団」に関する活動
- ▼ 【科一】…主に科学技術・産業（一）十巻「形式科学、自然

科学、応用科学、産業」に関する活動

- ▼ 【科二】…主に科学技術・産業（二）十巻「人間生活と科学技術、家政学、生活科学」に関する活動

- ▼ 【芸一】…主に芸術・文化・言語・文学（一）十巻「芸術、文化」に関する活動

- ▼ 【芸二】…主に芸術・文化・言語・文学（二）十巻「言語、言語学」に関する活動

- ▼ 【芸三】…主に芸術・文化・言語・文学（三）十巻「文学」に関する活動

◆ 肩書きは当時のものを記載する。

◆ 現在は名称変更、改組、廃止、閉鎖等が行われた機関であっても、当時の名称のまま記載する。

◆ 肩書き以外の敬称（「様」、「さん」等）は原則として省略する。

◆ その他、敬語表現をなるべく避け、事実関係のみを理路整然と列挙する。（〇〇様が主催なさる講演会にお呼びいただき、講師をさせていただいた）↓「〇〇が主催する講演会に招聘され、講師を務めた」などと表記。）

◆ その他、活動総年表の作成において編集者に注意喚起している「編集範囲の制限」及び「事実の列挙（編集著作物としてのみ著作権が発生する記述）の徹底」については、第六巻を見よ。

◆ 講演記録、配布テキストなどの著作物の本体は第十巻以降に収録した。それら以外の情報（各回の講演等の概要）は、この

活動年表を見よ。聴衆・聴講者に配布した簡易なテキストやチラシ等は、随時本年表にも掲載する。

（講演記録、配布テキスト、長編の論文、報告書などの文書類は、旧サイトのそれぞれの分野の特設サイトに掲載していたものである。）

◆ 岩崎の対外的科学活動の発端の大部分を占める共感覚関連活動については、「科学技術、産業（二）」に収録した日本の共感覚研究史と日本共感覚研究会の沿革、「芸術・文化・言語・文学（一）」に収録した私の共感覚などの変遷も参照せよ。

これらを追えば、今の日本のどの学術分野が共感覚に関心を持っているのか、動向が観察されて興味深いと考える。

私（岩崎純一）個人についても、世相を反映してか、私が最も強く希望する哲学的・純学術的なご関心を持って下さる方は少なくなってきた。それよりは、「岩崎さんの共感覚や哲学世界を生み出している脳や身体の神経学的・化学的・電磁氣的メカニズムを解明して、人間工学、動植物や人間（胎児）の遺伝子操作、日本の天才児育成などに応用したい」という特定の自然科学方面からのご関心と、「日本の文化・伝統産業が持っている諸要素について、それらの精神性の深さを継承していくというよりは、現代のビジネスにとって実用的・実利的な要素（視覚的な広告・宣伝効果など）を高めていくために、岩崎さんの感覚世界を参考にさせてほしい」という産業界（デザイン、色彩、被服、ファッション、生活、家政、観光業など）からのご

関心が多くなってきた。

◆ また、共感覚者は女性に多いとの検証結果が世界的に出ているが、私の共感覚を研究して下さっている研究者・教育者・学生も多くが女性であり、日本においても共感覚に関心のある方は女性に多いことが見て取れる。但し、常々論じている通り、この男女差は仮想・空想にすぎない（とりわけ、言語障害のある重度発達障害男性の共感覚の取りこぼしである）と私は考える。

◆ 作曲・音楽関連活動や和歌関連活動の履歴についても、「芸術・文化・言語・文学（一）」も参照せよ。

◆ 海外への研究協力は、共感覚者・被験者・共感覚研究者としての実験・研究協力が最も多く、また、ほぼネット・メールを介しての実験協力やインタビュー取材への協力となっている。本年表における年代別の列挙は、多くの場合で省略しているが、ネット上で回答可能な、海外の良質な共感覚実験サイトを、別途「知覚・共感覚関連リンク」の「海外の共感覚サイト」に掲載した。

◆ もっぱら第三者（著者や実験実施者）のみが岩崎を研究した著書や論文で、岩崎自身が直接に参加していないもの（すなわち、第三者による「岩崎純一研究」、「岩崎純一論」などに該当する著作物）については、【4系】または【8系】に収録する。これらの刊行・発表については、本年表には原則として掲載しない。

◆
とりわけ自然科学系の実験協力については、大学など当該機関のサイトにすでに公表されているもの、または協力の事実の掲載許可が得られたもののみを挙げる。掲載が許可されていないものについては、全部または一部を掲載してはいない。また、リンクが禁止された実験や論文には、ICWの各箇所からもリンクしない。

ネット上に実験内容の一部または全部が公開されている場合は、ICWの各箇所からそのアドレスにリンクした。

岩崎が講義・ゼミ・特別講座・講演・講話会・実験協力などを行った大学等のリストは、第四巻を見よ。

第二部 活動総年表

序章 一九八二（昭和五十七）年 〇歳

◆【総】四月二十四日、岩崎純一、岡山県岡山市に誕生。

第一章 一九八三（昭和五十八）年 〇歳～一歳

第二章 一九八四（昭和五十九）年 一歳～二歳

◆【芸一】鳩時計に合わせて声を出すだけで、言葉をしゃべらな

いため、親戚が病院行きを提案するが、父母は特に心配せず、病院に行かず。『ノントン』の絵本が好きだった。他に、『傘』『赤いリンゴ』『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』『みどりの機関車ヘンリー』『アイザック・アシモフの宇宙の絵本。』

第三章 一九八五（昭和六十）年 二歳～三歳

◆【芸一】よく砂場で遊ぶ。（父母が砂を取りに行った。）

第四章 一九八六（昭和六十二）年 三歳～四歳

◆【芸一】この頃、ひたすら庭遊び、図画工作などをして過ごす。

一方、本の文字が絵画のように見え、読書、読むということが好きになれない子どもであった。のちの自らの研究によつて、この原因が「共感覚」や「直観像記憶」、「読字障害（ディスレクシア）」であることを知ることとなる。但し、共感覚や直観像記憶は、学習障害でなく能力とされるし、読字障害と診断されたことはなく、比較的早期（高校卒業～二十歳前後）に文章を普通に読めるようになった。

第五章 一九八七（昭和六十二年） 四歳～五歳

◆【総】四月、幼稚園年少。

◆【芸一】将棋の駒の動かし方、ルールを覚え、将棋が好きになる。

◆【芸一】ピアノを習い始める。

◆【芸一】相撲も好きになる。紙相撲の付いた菓子を買って遊ぶ（貴闘力を「タコトウリキ」とするなど、実在の力士が海の生き物にもじつてある菓子）。（↓その後、一九九五年頃からは、特に琴乃若のファンで、しばしばテレビ観戦し、引退も見届けた。）

第六章 一九八八（昭和六十二年） 五歳～六歳

◆【総】四月、幼稚園年長。

第七章 一九八九（平成元）年 六歳〜七歳

◆【総】芥子山小学校入学。

◆【芸一】七歳、初めて作曲をする。曲名『インディアンの踊り』。

◆【芸一】この頃から、レゴブロックで本格的に遊ぶようになる。南海の勇者シリーズとお城シリーズが好きであった。買ってきただ船や城を、最初は図面通りに作り、数ヶ月後に分解し、自作の船や城に（既存の複数作を合体して）作り替えるという遊び方だった。

第八章 一九九〇（平成二）年 七歳〜八歳

◆【科一】八歳、小学二年、数学の授業で、サイコロの展開図十一通りを数分で描いて提出。そのご褒美として、残りの時間はクラス全員が休み時間となった。回答の提出時、教師の最初の一言は、「君は天才か」であったが、自分が人間とは異なる脳の障害（動物脳、超人脳）を持つ可能性もあると考え、かえって悩んだ。同時に、学校の勉学に物足りなさを感じる。

第九章 一九九一（平成三）年 八歳〜九歳

◆【科一】九歳、小学三年、姫路城天守閣の正確な展開図を画用紙に描き、組み立てる。これにより、ますます脳のはたらきが同級生と異なることを自覚する。このときに用いた感覚が「共感覚」や「直観像記憶」なるものであることを、やはりのちに知ることになる。

◆【芸一】小学校の将棋クラブに入部。普段は同級生や下級生としか指さなかったが、ある日、六年生と指す機会があり、勝ってしまった。その六年生はかなり落ち込んでいた。当日そのままその六年生と一緒に下校したが、彼は終始うなだれてゆっくり歩いていた。途中道で別れた後、岩崎が振り返って見ても、まだ俯いて歩いていた。以後、六年生相手には、勝たないように角の動きを調整するなどしてわざと負けていた。

第十章 一九九二（平成四）年 九歳〜十歳

◆【社一】いじめを受ける。クラスメイトから「顔にイモムシを這わせながら算数のテストを受けること」などの指示を受け、その通りにしないとさらにいじめが激化するため、その通りに従っていた。また、しばらくしてクラスメイトの八割が行列を組んで、私を避けて歩行するようになった。宿題をほとんどしない時期が続く。リチャード・クレイダーマンのピアノ曲を聴いて過ごす。一方、依然として学校での勉学に物足りなさを感じ

じる。

第十一章 一九九三（平成五）年 十歳〜十二歳

◆【社一】六月、いじめが再燃する。半年ほど続く。

◆【社二】十二月、いじめ収まる。

◆【総】幼少期から小学五年生までに遊んだゲームなどの一覧。スーパーギャラクシアン（エポック社）、サッカーゲーム（ボードゲーム。従兄が買ってくれた）、ゲームナインプラスワン（ボードゲーム。ダイヤモンドゲーム、タクシーゲームなど）、あれちゃん（ボードゲーム）、クレイジークライマー（ボードゲーム）、悪霊島（ボードゲーム）

第十二章 一九九四（平成六）年 十一歳〜十二歳

◆【総】六年生、四月、小学校の生徒会に当たる「運営委員会」の委員を務める。

◆【総】公立中学校への進学や当時の友人関係ではなく、勉学の世界に没頭することを選ぶ。中学受験のため、塾に通い始める。

第十三章 一九九五（平成七）年 十二歳〜十三歳

◆【総】一月十七日、兵庫県南部地震及び阪神・淡路大震災が発生。

◆【総】三月二十日、地下鉄サリン事件が発生。

◆【総】四月、岡山白陵中学校入学。

◆【科一】十一月、Windows 95 が発売される。初めてパソコンとインターネットに出会う。「森田将棋」を指す。次第に大学の受験勉強が忙しくなってきたため、中学後半から高校時代はパソコンから離れる。

第十四章 一九九六（平成八）年 十三歳〜十四歳

◆【人二】五月より、自我の非現実性と偏頭痛とにひどく悩まされる。授業を数コマ連続で休み、保健室にて安静。症状の訴え方・言語化に苦勞を覚える。のち二〇〇五年に、「離人症」と「閃輝暗点」なる呼称の付いている症状であると知る。

◆【芸一】九月、テニス部に入部。

◆【芸二】十二月、英語で大量の詩を書き始める。

◆【芸三】中学時代より和歌の研鑽に励む。十二月、人生で初めて和歌を詠む。十数首。全て文語短歌で、耽美的・反私小説的作風であった。これが現在まで続く。また、校内の百人一首大会の運営部員を務める。

第十五章 一九九七（平成九）年 十四歳〜十五歳

◆ **【芸三】** 中学三年、古典の教師から何気なく配布された『更級日記』を全訳する。のちに破棄。しかし、この行動全体が、巡り巡って、のちの和歌・古典関連での旧宮家の子女、旧華族の子女、巫女との交流につながる事となる。

第十六章 一九九八（平成十）年 十五歳〜十六歳

◆ **【総】** 岡山白陵高等学校入学。

◆ **【総】** 特に具体的な夢や希望もなく、ただひたすら学問・知的活動への並々な熱情のみにより、東京大学受験を考えるようになる。ただし、文系の先生からは文科のいずれか、理系の先生からは理科のいずれかを受験するよう言われ、多くの先生から「自分の人生にとって、得に、有利になるような道を選びなさい」と指摘されたが、なかなか難しく、自分の実利的発想の乏しさに悩みつつ、先生方の思想や人生観に疑念を抱く。

◆ **【人二】** 十二月、人生で初めてニーチェに出会う。三島憲一の『ニーチェ』（岩波新書、一九八七年）にて。

以後、十七歳からニーチェの著作を読み、永劫回帰思想や運命愛の探究へと進む。小学校時代のいじめ被害の根源的要因（人間性質の根本的相違）が学問としての哲学の文脈の中で論理的に理解できるようになる。

また、自分の知的関心が、哲学を基盤とする全学問であるこ

とを改めて認識し、人生の道筋を判断する際に、学校教師の発言や思想よりも、哲学書を遠慮なく、思う存分に参照するようになる。

第十七章 一九九九（平成十二）年 十六歳〜十七歳

◆ **【芸三】** 一月、新たに日本語や英語の詩や散文を書き始める。

◆ **【総】** この頃、東京大学受験を決意する。

◆ **【芸三】** 二月、これまでに書いた英語による詩篇のほとんどを破棄。新たに英語の詩を書き始めるが、これものちに破棄する。

◆ **【社二】** 六月、ロンドンに修学旅行。

◆ **【社二】** 七月、日本を憂える、という感覚を初めて体験する。

◆ **【総】** 八月、駿台予備校主催の勉強合宿（於…神奈川県箱根セミナーハウス「紅雲荘」）に参加。一週間宿泊。同じ高校から数名ずつ参加。別の高校の女子に恋をする。終了・帰省後も手紙を送る。

◆ **【芸三】** 十二月、この頃までおよそ半年間書いていた詩や和歌や言語スケッチのまとまり『不調和』を破棄。心労のため、勉強への集中と成績の維持がしばらく困難となる。

第十八章 二〇〇〇（平成十二）年 十七歳〜十八歳

◆ **【芸三】** 元日、日記を始める。『余情の砂（よせいのいさご）』。

①世の中の出来事、②東京大学を受けるまでの勉学の軌跡、③人心がいかにあるべきかについての考えを、一日一行で描いたもの。二〇〇〇年～二〇〇四年初め筆。

◆【総】八月、前年同様、駿台予備校主催の勉強合宿（於…神奈川県箱根セミナーハウス「紅雲荘」）に参加。一週間宿泊。前回恋をした女子は参加せず。

第十九章 二〇〇一（平成十三）年 十八歳～十九歳

◆【総】三月十日、東京大学文科三類合格。四月、入学。ただし、入試突破には、文系学問よりも数学の点数が影響していると思われる。文系数学は、全四問のうち一問でも正解すれば合格できるが、自己採点では、四問中、最低でも三問を正答したと考えられ、国語、英語、世界史、日本史に準じる出来だったという結果になった。しかも、入試当日は、朝から途轍もない胸痛に見舞われていたが、それでも何とか突破（胸痛は約五日後に解消）。大学では、ひたすらニーチェ、ショーペンハウアー、キルケゴールなどの実存哲学や「生の哲学」について研究発表。

◆【総】四月から大学で情報処理の必修授業を受けるも、面白さを感じられず、自分でパソコン、HTML、DTM・DAW（デジタルでの音楽・音声の制作・編集環境のこと）などの勉強を始める。

◆【総】この頃から、様々な学問体系への現在に至る具体的な探

究心が芽生える。

◆【人一】五月より、実存的苦悩の数年間が始まる。随筆・女性画・和歌などの創作に没頭。前述の『更級日記』全訳からの縁により、秘かに反体制的な思想を持つ旧宮家の子女、旧華族の子女、巫女との交流を秘密裏に始める。

◆【人一】九月、極度の拒食を呈する。一日の食事がトマト二個や水のみの日を幾度も繰り返す。体重が十キロ減って四〇キロ台となる。なぜか同じ時期に、前述の巫女達が集団拒食に陥って巫女神楽を満足に舞えなくなっており、自分個人の心身問題に關心を深めると同時に、日本の四季と日本人の心身状態との関連にも文化人類学的關心を深めていく。

◆【芸一】十月より、巫女達との和歌のやり取りや作曲に没頭。十代以来の和歌の一部を破棄。また、小曲を作っては破棄を繰り返す。随筆など文筆に没頭。精神的に落ち込む時期もありつつ、食事が次第に回復。やがて筋トレまで行い、二の腕周りも元通りに回復。

◆【芸一・女性】十二月、同年代（十七～二十三歳）の女性アイドル本人たちや、当該女性たちが運営・所属する小規模の個人芸能事務所からの依頼で、楽曲を制作・提供。DTMを多分に駆使し、実名でない別名義で作曲・編曲を担当（歌詞は本人たちや別人が担当）。

これらの女性たちは、当時「お菓子系アイドル」と呼ばれながら斜陽期にあったグラビア活動中心のアイドルたちで、中で

も転向先として有力だった成人向け媒体への出演を避けて音楽・歌手・女優活動へと舵を切り始めたアイドルたちの後押しを、結果的に私も担うこととなった。中には事実上のデビュー曲もあり、CDアルバムも担当した。また、ファンや作曲家の一人としてライブ会場にも盛んに足を運んだ（およそ三十回）。

以前より私自身が、小川範子（ヌードグラビアに登場するなど、とりわけお菓子系と同様のルートを辿っている）、菊池桃子、斉藤由貴、岡田有希子（十八歳で飛び降り自殺）などを好んで聴いており、担当したアイドルたちはそのちょうど十歳ほど下の世代であるため、昭和アイドル色と平成アイドル色を折衷した曲調の閃き・創作には何の苦もなく、提供できたことを嬉しく思った。

一方では同時に、同世代としての様々な同情と憂慮を感じることもあった。お菓子系アイドルからは自殺者が何人か出ている。私が楽曲を提供した女性の中には、幸いにもそのような運命を選んだ女性はいなかったようである。

さらに、うち数名のアイドルのウェブサイトを制作し、Yahoo! ジオシティーズにて公開した。

（↓二〇二二年現在、数少ないながらも、一部の当該女性たちは活動を継続している。Yahoo! ジオシティーズはサービス終了となったが、各サイトは早期に移転・譲渡済である。）

第二十章 二〇〇二（平成十四）年 十九歳〜二十歳

◆【総】二十歳、小規模のウェブサイト「The Blue Road (TBR)」

（「憂鬱な道」の意）を sound.jp にて立ち上げる。音楽（作曲）の話題が中心。作曲関係の仕事のサイトを兼ねる。サブサイト（主に音楽データ置場予備、および TBR 内のヘヴィメタル愛好家・ミニ音楽グループ「Silent Fantasia」のサイト）として、ismusic のサーバーを無料レンタル。ismusic は、当時にしては大容量、無料サービス過多ですぐに倒産。

◆【芸一】この頃、無料・有料のソフト提供サイト Vector のゲームを色々ダウンロードして遊ぶ。

◆【総】自分のサイト、インターネットで知り合った哲学マニアと面識を持ち、語り合うようになる。東大哲学にない深みを感じるようになる。

◆【芸三】随筆調思索ノート『非在』、書き始める。四か月ほどで二〇〇二年以内に中断。この頃より、およそ二年間、外出の用以外は、部屋に籠って思索に耽る。三島由紀夫、須原一秀、万場世志治の自決を研究。

◆【芸三】六月からは、わずかながら和歌を詠み、心の平安を得る。

◆【総】九月、東大の降年制度により、大学二年後期から降年、大学一年後期を繰り返す。降年となる学生が極めて少ないのか、教務課がこの際の手続きを理解しておらず、結局よく分からなかった。

◆【総】十月以降、日記・芸術作品など、一切の記録・創作が途絶える。食事・思索・入浴・睡眠のみの繰り返し生活を送る。この頃よりおよそ十ヶ月間、文字を書いた日は数える程度であった。

第二十一章 二〇〇三（平成十五）年 二十歳～二十一歳

◆【人二】一月より、キルケゴールばかりを集读的に読む。

◆【総】引き続き、ネットを通じた哲学マニアとの交流は行う。

◆【科一】三月、これまでの自らの諸々の独特な感覚が「共感覚」と呼ばれているものであることを知る。また、偏頭痛の前兆の視野狭窄が「閃輝暗点」と呼ばれていることを改めて知る（一九九六年以降、忘れていたもの）。それぞれについての研究を始める。

◆【芸一】四月、岡山県バレエ連盟発足。のちに岩崎のバレエ曲、ピアノ曲、幻想曲の提供先となるバレエ団体の集合体。

◆【総】東大降年二年。この降年制度について、改めて東大に尋ねても、相変わらず不徹底でよく分からない回答が返ってくる。

◆【芸二】クラシック・アンサンブル「Lustrous Veil」に楽曲を提供（洗足学園音楽大学・国立音楽大学の学生と私岩崎のアンサンブル。二〇〇二年～岩崎が音楽仲間募集サイトに自ら構想・音楽性など投稿、メンバーを募っていた。当初反応のあった男性メンバー候補などと下北沢などで打合せ、デモテープ交

換などしたが、最終的にクラシック系女性メンバー十作曲岩崎の同名グループで落ち着いた。略称は「ラスベル」

第二十二章 二〇〇四（平成十六）年 二十一歳～二十二歳

◆【総】四月三十日、東京大学教養学部中退。手続きの際、教務課に休学として処理されそうになるなど、やはり前述の通り、休学以外の手続き（降年や退学の手続き）を教務課の職員が理解していない様子だった。

◆【芸三】四月三十日、日記『余情の砂』の全てを破棄。

◆【芸一】自分の共感覚をウェブサイトやブログ上で公表することを考え始める。一月一日に簡易サイトを公開。この年をもって、人間の知覚・心理全般を扱うサイトとしての公開年とする。すぐに「岩崎純一のウェブサイト・ブログ」としての運営を開始。但し、自分自身の共感覚の例ではなく、共感覚などの人間の知覚全般の解説を掲載。また、共感覚に関する情報収集活動を開始。

◆【芸二】七月、バレエ音楽『夕麗（せきれい）』が上演される。（会場：岡山市民会館）



◆【人二】八月より、九鬼周造、岡倉天心、久松真一、西田幾多郎、井筒俊彦などを集中的に読む。

◆【芸二】十月より、オディロン・ルドン、フェルナン・クノッップ、レオン・スピリアールト、ギュスタヴ・モローなどの象徴主義画家の絵画を渉猟する。とりわけ、『新古今和歌集』の「虚無」の美との共通点に傾倒する。

第二十三章 二〇〇五（平成十七）年 二十二歳～二十三歳

◆【総】一月、前述の九鬼周造の書と象徴主義絵画の渉猟により、精神がかなり回復する。

◆【芸一】自分の共感覚をサイトで初めて公表。現在も、当時の

◆ まま「基本的な共感覚」として掲載中。
 ◆【芸一】七月三十一日、バレエ音楽『夕麗』が上演される。（会場：岡山市民会館）



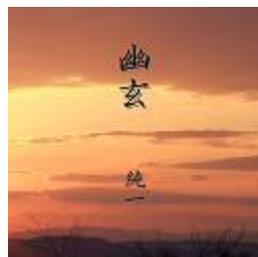
◆【芸二】クラシック・アンサンブル「Rada（ラーダ）」に楽曲を提供



- ◆ 【芸一】共感覚と音楽とを関連付けた活動を始める。『共感覚』への共感覚の音楽』を制作。
- ◆ 【人二】道元の思想に心酔。黛敏郎の音楽に傾倒。
- ◆ 第二十四章 二〇〇六（平成十八）年 二十三歳〜二十四歳
- ◆ 【総】SNSの mixi を始める。共感覚コミュニティに入り、急に共感覚者との交流が増える。
- ◆ 【芸一】駒沢女子大学人文学部日本文化学科からの共感覚関連質問（私の色彩感覚について）に回答。ここでの知見は、二〇一一年以降の合同勉強会にも生かされた。全集に同勉強会のテキストを収録済み。
- ◆ 【芸二】大正大学大学院文学研究科からの質問（私の色彩感覚・日本の伝統色について）に回答。
- ◆ 【芸一】岩崎の色彩感覚が諸方面から関心を持たれ、研究され始めたことを機に、岩崎も色彩感覚の研究を開始。「日本人の色彩認識、及び日本人共感覚者の色彩認識の特徴に関する実験」を実施（アンケート調査あり）。
- ◆ 【芸二】精神障害者や強度の共感覚者向けの自作言語の考案を本格的に開始。「スラフオーリア（スラポリヤ、寿羅穂里阿）」（のちの「岩崎式日本語」と命名。岩崎自身によりスラフオーリア（スラポリヤ）研究会」が発足。



- ◆ 【芸一】CD『幽玄』発売。音楽家紹介サイト「Symphonica」に掲載される。
- ◆ 【芸一】五月二日、バレエ音楽『夕麗』がハートランド倉敷にて上演される。（会場：倉敷アイビースクエア）山陽新聞にて紹介される。



◆ 【芸三】 六月、藤原定家の研究を本格的に開始。

◆ 【芸一】 八月、バレエ音楽『丹頂の舞』（「落葉」・「丹頂」）、岡山後楽園「幻想庭園」にて上演される。作曲中、不特定多数の女性の身体を左右する曲を作る自らにひどく苦悩する。その反動で、日本人女性の身体性に反しない共感覚芸術を構想するようになる。

なお、主催者側の都合により、一部の案内チラシなどで表記が『タンチョウの舞』となっている。（漢字の「丹頂」よりもカナ書きの「タンチョウ」が一般的であるため。）

これ以降、この『丹頂の舞』は引き続き上演されているが、同様の理由で表記が『タンチョウの舞』となっている場合がある。また、『丹頂鶴（タンチョウヅル）の舞』として上演されることもある。

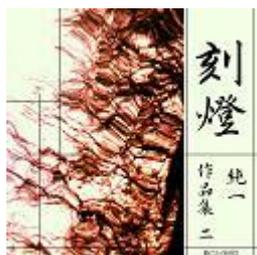


岡山県バレエ連盟撮影

◆ 【芸一】 九月三日、バレエ音楽『夕麗』、第二回岡山県バレエフェスティバルにて上演される。（会場：岡山市民会館） 同フェスティバルは、第四回おかやま県民文化祭分野別フェスティバル事業、第四十四回岡山市芸術祭参加事業、第二十一回国民文化祭・やまぐち2006協賛事業。



◆【芸一】CD『刻燈』発売。音楽家紹介サイト「Symphonica」に掲載される。



◆【芸一】十一月三日、バレエ『夕麗』が国民文化祭にて上演される。(第二十一回国民文化祭 やまぐち二〇〇六)



岡山県バレエ連盟撮影

◆【芸一】十一月、巫女達と和服及び日本の色彩の研究を始める。

◆【女性】十一月十一日、岩崎へ精神障害・神経症性障害等を相談してきた女性ら(岩崎純一のウェブサイトを經由↓多くが岩崎と対面済・交流中)により、岩崎の活動およびサイト内における女性芸術部門の立ち上げ検討会(共感覚・知覚集会、作曲集会と該当ページ)が始まる。

◆【芸一】十二月七日、ピジョン株式会社岡山医療センターくるみ保育園の保育使用時の楽曲(クラシック・ピアノ曲)を作曲。

◆【芸一】十二月十三日～十六日、岩崎作詩・作曲『Poem de Petales』の女子寮内舞台演出について女性部門と合同検討会。セリフ、演奏（ピアノ、フルート、オーボエ、ストリングスなど）担当振り分けと各種調整。のち、ネグリジェ悲恋舞台劇などとして寮のメイン舞台となる。

第二十五章 二〇〇七（平成十九）年 二十四歳～二十五歳

◆【社二】小野薫枝らにより「空木会（うつぎかい）」が発足。岩崎に心身の懊悩煩悶を相談した人たちのミニサークルとして発足。知覚・精神全般について議論する会に発展したのち、解散、女性部門本部に吸収。

◆【社二】青柳香織、芝倉沙星らにより「花薄会（はなすすきかい）」（岩崎純一さんの会）が発足。岩崎に心身の懊悩煩悶を相談した人たちのミニサークルとして発足。閃輝暗点・離人症・強迫性障害などについて議論する会に発展したのち、解散、女性部門本部に吸収。

◆【女性】二月十日、岩崎の活動およびサイト内における女性芸術部門の立ち上げ検討会。空木会と花薄会が本部に合流し、共同体制に。

◆【総】四月二十四日、mixiレビュー使用開始。まず拙著のレビューを読んだことから。以後、数冊にのみレビュー投稿。

◆【芸一】五月二日、ビジョン株式会社岡山医療センターくるみ保

育園の保育使用時の楽曲の作曲をまた開始。六月三日および十月二十八日、集中作曲日。

◆【総】五月二十五日、ネット上で共感覚ブログ「日常を疑って日常を嗜む」を書き始める。

◆【芸一】五月二十九日、真宗大谷派證願寺（東京都葛飾区立石）で、自分の共感覚について初めて人前で発表（「春日会」内の講演、主催者は春日了氏）。演題「主観的体験としての共感覚、及び共感覚の芸術的表現」。会場は寺院だが、参加者の多くは東大の教員・学生で、講演内容は自由であり、宗派とは無関係。全集にテキストを収録済み。

◆【芸一】六月五日、二〇〇八年度バレエ上演決定、段取り開始。舞台が岡山のバレエ連盟・バレエカンパニー主催の公演から、東京や関東の女子寮での私の上演に移り始める。会場も概ね岡山から東京へ。

◆【芸一】六月十七日～七月一日、英語教材DVDにバックミュージック四曲を提供。

◆【女性】六月二十四日、女性部門運営検討会。喫茶店で一時間。以後しばらく同じパターン。

◆【芸一】六月、ピアニスト長富彩のCD全国発売に向けたリサイタルの東京公演を鑑賞。CD入手。（二月の東京葛飾のアイリスホールにおけるライブ録音以来、ご本人も含めたmixiのマイミク同士で、各地の公演への参加呼びかけに協力。私も参加。）

◆【芸一】共感覚者が集う複数のサークルに盛んに参加開始。自ら

会を単発または連続で主催することもあり。（但しこれ以降、参加・主催した数年間の約三十回に亘り、ほぼ女性しか参加せず。一方、この中から、岩崎の活動の女性部門への参加者が増加。次第に元のサークルの方が停滞、自然消滅。）初回は二〇〇七年七月七日、「共感覚者の集い」。池袋東武レストラン街。色鉛筆、ノート、本、カメラなど持ち寄り、互いに共感覚の実演。（参加者情報は岩崎または女性局まで。）

◆【芸一】共立女子大学家政学部被服学科からの質問・協力依頼（岩崎の色彩感覚と日本の伝統色に対する感覚について）に回答。

◆【芸一】早稲田大学第一文学部（現在は廃止）からの共感覚関連質問に回答

◆【芸一】七月二十八日、「共感覚者の集い」。池袋東武レストラン街。（参加者情報は岩崎または女性局まで。）

◆【芸一】八月十一日〜九月十四日、演歌のカラオケ音源を制作、提供。（岩崎の行きつけの床屋でもある、演歌作詞家の青木圭介氏による作詞の以下の楽曲『輪島みれん』、『越前ひとり旅』、『旅人の讃歌』、『一人娘は宝もの』十一月三日、『旅人〜』手直し。

◆【芸一】八月十二日、正午〜「共感覚の集い」。品川駅トライアングルロック待合せ。（共感覚研究者の参加により、名称変更。参加者情報は岩崎または女性局まで。）

◆【芸一】八月二十六日、「共感覚の集い」。下北沢。（参加者情報は岩崎または女性局まで。）

◆【芸一】九月一日、Second Life マニマ『芭蕉』に楽曲提供（依

頼主…CET）株式会社・ディックファイナンス、プロデュース…シュガーチューン）。（五月十四日〜提供決定、準備・調整開始。八月二十九日〜三十一日、各パートデータ準備作業。九月一日、データCD持参、ミックス作業立ち会い。）ニコニコ動画にて低画質版を視聴可能。

<https://www.nicovideo.jp/watch/sm1300101>



◆【芸二】和歌のページを開設。解離症状や共感覚を有する巫女歌

人様などとも面識を持つようになる。

- ◆【芸三】岡山出身者や岡山に縁故のある方々（のちの糸姫会・余情会メンバーを含む）と共に、郷土岡山の和歌・歌道・歌書・郷土史、芸術家（正徹などの歌人から竹久夢二などの画家・詩人まで）についての交流を始める。

- ◆【芸三】歌道を担った家系の子女の方々（旧公家・旧貴族・旧武家・旧華族や巫女・社家や芸妓・舞妓）と和歌の交流を始める。のちの「余情会」の基本形態ができる。

- ◆【芸一】九月九日、「共感覚の集い」。主に新宿。新宿く皇居周辺間の長距離散策を含む。（参加者情報は岩崎または女性局まで。）

- ◆【芸一】九月三十日、「共感覚の集い」。主に新宿。世界堂で画材検討、購入など。（参加者情報は岩崎または女性局まで。）

- ◆【芸一】十月二十一日、「共感覚の集い」。品川。（参加者情報は岩崎または女性局まで。）

- ◆【芸一】九月より、『共感覚幻想曲』の作曲を計画。十月、作曲場所となる庭園と作曲モデルとなる複数の女性の選定を始める。女性の条件としては、既に岩崎と対面済、電話番号・メールアドレス交換済の女性に限った。十月二十七日、モデル女性らと打合せ（女性側の希望、服装、カメラ・タオル・コンタクトレンズ等持ち物、参考譜面、昼食、菓子、交通費、謝礼など）。十一月十七日、モデル女性らと浜松町・新橋下見。十一月二十三日、再度打合せ。春夏秋冬・年四回実施の案が出たが、これは日程の都合でやめ、ひとまず単発実施へ。但し「一つの共感覚作品、芸術作

品として、クラシックの曲調で、同じ場所、同じ女性メンバーで制作すること」をモットーとした。十二月一日・二日、集中作曲日としてまず実施。一日、浜離宮恩賜庭園にて、庭園及び女性をモデルに作曲。カレッタ汐留にて食事。二日、浜離宮恩賜庭園にて作曲続き。これを皮切りに、以降十二月末まで、複数回に分け、浜離宮恩賜庭園及びカレッタ汐留にて、庭園などの背景及び女性をモデルに『共感覚幻想曲 一』を作曲。花薄会の芝倉沙星、余情会の青柳香織、共感覚研究者の湯澤優美などが参加。

- ◆【芸二】九月以降、海外の共感覚文献・論文への関心・読解や、海外から女性部門へオンライン参加する女性への対応のため、以下の外国語を独学で集中学習：中国語、仏・伊・西語、トルコ語。元来の言語学への関心も相俟って、次第に学習言語数が増える。

- ◆【総】ブログ印刷。一部を読者に配布。

- ◆【社一】十二月十日、日本語と前述の外国語の対応の変遷を調べるため、明治・大正の新聞を読み始め、しばらく研究。

第二十六章 二〇〇八（平成二十）年 二十五歳～二十六歳

- ◆【芸一】一月より、女性の和服・着物と共感覚の関係についての研究・記録を始める。この記録に基づいて、『対女性共感覚に基づく着物の色目の考案』を執筆・作画。五月までに、五十二の着物の色目デザインを創作。全集に収録済み、現存。

- ◆【芸一】大妻女子大学家政学部被服学科に岩崎が考案した着物の

色目案を提供。

- ◆【芸一】昭和女子大学人間文化学部からの共感覚関連質問（岩崎の五感のあり方について）に回答。

- ◆【芸一】大妻女子大学文学部日本文学科からの質問紙（岩崎の色彩感覚と日本の伝統色に対する感覚について）に回答、共感覚実験に参加。

- ◆【芸一】一月二十五日、十一時〜、「共感覚の集い」。東久留米。当会は「縁（えにし）会」と命名。（参加者情報は岩崎または女性局まで。）

- ◆【芸一】一月より、『私は何を感じているのか』ある日本人男性の共感覚世界』を執筆、原稿が完成。三月、出版社四社に原稿が渡る。PHP研究所以外の三社は、自己啓発本・宗教本としての扱いと大幅な書き直しを提案。但し、PHP研究所からもある程度の規模の書き直しの提案があり、書き直し。

- ◆【芸一】二月二十五日、「共感覚の集い」。主に新宿。東京までの徒歩散策を含む。（参加者情報は岩崎または女性局まで。）

- ◆【芸一】三月三十日、十一時〜、「共感覚の集い」。品川。トライアングルクロック待合せ。（参加者情報は岩崎または女性局まで。）

- ◆【芸一】学習塾教材DVDにバックミュージック四曲を提供。

- ◆【芸一】『芭蕉』を機に、メタバース「Second Life」の各コンテンツに楽曲・効果音を提供。



- ◆【芸一】作曲家集団「庵」に参加（三名のところ、岩崎が参加し四名に）。初回の仕事を受注し、楽曲提供準備。しかし、主宰者の都合により停滞、結成数ヶ月後に解散。

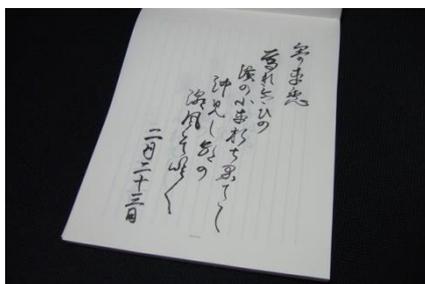
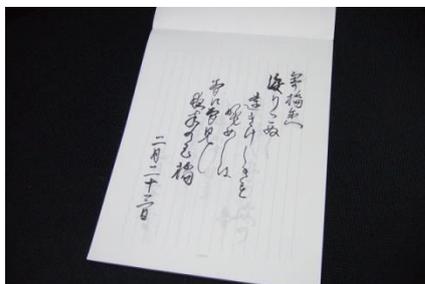
- ◆【芸一】ピジョン株式会社岡山医療センターくるみ保育園の保育使用時の楽曲『童心』・『夢』・『時』などを作曲。

- ◆【芸一】前年の『共感覚幻想曲』の作曲を再度行う。事前に前述の同じ女性らに再び作曲モデルを依頼。四月五日、神奈川県平塚駅北口集合。平塚市総合公園にて説明後、作曲開始。以降、四月末まで、複数回に分けて実施。東京都内の公園及び平塚市の同公園などで『共感覚幻想曲 二・三』を作曲。

- ◆【芸一】四月十二日、十二時〜、「閃輝暗点の集い」。品川。トライアングルクロック待合せ。（参加者情報は岩崎または女性局まで。）

◆【芸一】四月十三日、十二時〜、「共感覚の集い」。主に新宿。小田急南口待合せ。（参加者情報は岩崎または女性局まで。）

◆【芸二】四月、再び和歌を詠み、『和歌日記』として記録し始める。妖艶美・象徴美・反私小説の傾向が強まる。また、十代の頃の和歌（一九九六年〜）のうち記憶に残るものを、改作しつつ再び書き留める。のちの『新純星余情和歌集』として現存。



◆【芸一】五月二十四日、「共感覚の集い」日帰り鎌倉旅行に参加。九時五十分、渋谷集合。（参加者情報は岩崎または女性局まで。）

◆【芸二】六月、初めてネット上での和歌投稿活動を開始。水垣久氏主催の歌会「花筵」（氏の和歌サイト「やまとうた」内）にて。

二〇一〇年九月まで長期に亘り開催。岩崎は全題詠進。左記ページに掲載。

http://www.asahi-net.or.jp/~sg2h-ymst/bbs/hamamusiro100_a.html

[html](#)

◆【芸三】岩崎純一、長満たき、青柳香織、戸井留子らにより、古代・中世の和歌サロン（和歌所）の再現の試みである「伝統和歌の会 余情会」、および、共感覚と和歌の関係を探究する「共感覚者 and 和歌の会」が正式発足。余情会和歌所（余情会での役割）としては、岩崎は二〇一一年より開闢（かいこう）を務める。「共感覚者 and 和歌の会」は、のちに「余情会」と「日本的共感覚人間学研究会」に吸収。

余情会の次の歌会・歌合に参加。

- 『寄花木女一字十二首 菖蒲、鳶尾、杜若』、『寄風月女心十二首』、『女髪十首』、『如来七首、菩薩七首』、『着物十二首 新暦』、『詠花鳥風月和歌八十四首 花二十四首、鳥二十四首、風月三十六首』、『寄調度恋二十五首』、『和漢朗詠集 恋』、『雪月花十二首』、『東十条花紅葉歌』、『祇園花見小路憂愁三首』



◆【芸一】六月二十一日、「共感覚・閃輝暗点の集い」。品川。（参加者情報は岩崎または女性局まで。）

◆【芸二】八月十七日、「共感覚の集い」。渋谷。（参加者情報は岩

崎または女性局まで。)

◆【芸一】九月六日、十八時五十分、mixi 共感覚コミュニティオフ会。縁会および閃輝暗点の集いの一部メンバーも参加。横浜駅相鉄口側ビブレ前集合。甘太郎にて。岩崎は色彩感覚・共感覚の質問・実験紙を持参、回答を集める。(拙著『音に色が見える世界』でも紹介した実験で、当日の結果も同著の一部となっている。) 解散後、縁会メンバーのみ十月五日の段取り。

◆【芸一】十月五日、「共感覚の集い」(縁会)。しばらく縁会の開催見送りへ。(参加者情報は岩崎または女性局まで。)

◆【芸一】十月、国民文化祭用バレエ音楽の依頼あり。今年十一月の茨城には間に合わず、翌年の静岡、翌年の岡山で上演へ。上演タイトルは再び『丹頂(鶴)の舞』、『夕麗』。バレエ用に編曲開始。

◆【芸一】十二月、『水の精の夢』(合奏版)をいくつかのカフェのBGMとして提供。

第二十七章 二〇〇九(平成二十一年)年 二十六歳〜二十七歳

◆【社二】藤山センらにより「糸姫会(いとひめかい)」が発足。かるた・羽根つき・貝合・花いちもんめなど、日本古来の女性の遊びや岩崎の和歌に親しむ会。和歌の提供を開始。

◆【芸三】旧宮家の子女の方々と和歌の交流を始める。



◆【芸三】私家集である『新純星余情和歌集』の公開を開始。

◆【芸三】余情会の次の歌会・歌合に参加。

◆【芸三】『大江戸往来恋歌合』、『日本庭園恋歌合』

◆【社二】伊田小春、佐々木愛華らにより「岩崎純一さんの合同勉強会」が発足。学生、社会人女性、主婦、シングルマザーなどが参加。実務は、一般の主婦たちと、大妻女子大学、駒沢女子大学、武蔵野大学、十文字学園女子大学の学生たちが担った。四月十日会合テーマ「多人・離人症状」。五月七日会合テーマ「強固な共感覚者の悲劇体験」。五月二十四日会合テーマ「幻視」。八月二十三日会合テーマ「スポーツ論」。九月二十九日会合テーマ「来たるべき共感覚論」毎回、一定以上の統一的な結論を出す形式。

◆【科一】専修大学文学部心理学科(依頼者は湯澤優美)からの共感覚関連質問紙(文字と色の関係)に回答。

◆【科一】東京工業大学工学部からの共感覚関連質問(共感覚者など知覚鋭敏者が不快に感じる人工塗料等の化学物質や騒音について)に回答。

◆【芸一】ピジョン株式会社岡山医療センターくるみ保育園の園歌

花

を作曲。

◆【芸一】『花・共感覚者五十人による』を作曲。

◆【芸一】九月十五日、二十五歳時に書いた論考・日記などを中心に書籍の形にした『音に色が見える世界 「共感覚」とは何か』（PHP研究所）が出版される。



◆【芸二】十月七日、十四時〜、「共感覚の集い」。新宿アルタ前集合。（参加者情報は岩崎または女性局まで。）

◆【芸二】十月十二日、十四時〜、「共感覚の集い」。原宿集合。（参加者情報は岩崎または女性局まで。）

◆【芸二】十月〜十一月、国民文化祭しずおかにて、提供した楽曲『丹頂（鶴）の舞』『夕麗』によるバレエ公演が行われた。振付・

上演は岡山県バレエ連盟・岡山バレエカンパニーが担当。

◆【芸一】十一月二十一日（土）午後三時〜六時、講演会「音に色が見える世界・共感覚とは何か」で講師を務める。担当教員は草野慶子教授。早稲田大学文学術院・文化構想学部現代人間論系の講義「わたし」を読む」の一環。会場は早稲田大学戸山キャンパス三十六号館六八二教室（二十三号館二階で事前打合せ）。全集にスクリーン映写テキストを収録済み。

<http://www.waseda.jp/gendainingen/>

◆【芸一】十一月、TOKYO MX「ガリレオチャンネル」にて「共感覚のミステリー 音や文字に色を感じる」(ワック株式会社制作)が放映される。番組が制作されるにあたり、インタビュー取材に協力。（その他の取材先：関西学院大学理工学部 人間システム工学科 長田典子教授、東京大学文学部 大学院人文社会系研究科 横澤一彦教授ほか）
(二〇一一年四月に再放送)

第二十八章 二〇一〇(平成二十二)年 二十七歳〜二十八歳

◆【総】一月頭から、サイト(メール)、サイトのオフ会、大学で担当した授業・講演などを通じて、引き続き多くの関係者、学生等と交流。一月四日からしばらくの間、海外のサヴァン症候群や共感覚に関する論文を読む(スペイン語、ドイツ語など)。但し、自分の既知の知識・問題意識や仮説より以上の目新しい知見は得

られず。また一月六日、共感覚境界でも話題の中村雄二郎『共通感覚論』を初めて読む。目新しい知見は見当たらず、更には著者自身が共通感覚論に共感覚をうまく組み込めなかったと書いている。(一方、共通感覚と共感覚を融合した岩崎の総合感覚論は、二〇二一年発表の長編論考『絶対的一者』にて著述。) 一月七日、ヴェトナム人女性らが岩崎らの共感覚の集いに遠隔参加を始めたため、ヴェトナム語も学習。日本人による東南アジア人女性の人身売買が多分にテーマに上がったため、日本語とヴェトナム語を中心に女性器・生理現象等の呼称リストを作成し、日本国内女子寮・アジア現地女性らの双方に提供。

◆ **【女性】** 一月十六日、統合失調症女性が女性部門メンバーに加わったものの、以降、幻聴・幻覚や妄想により確信した架空の事実を事務を持ち込む、或いは日本語が破綻しているなど、同症に特有の陽性症状によって運営上のトラブルが頻発したことから、参加条件を引き上げ。一方、一月三十一日、女性らと岩崎との共同作業で生まれた間取り図が完成。のちの女現研の女子寮の間取り設計に組み込まれる。三月四日、岩崎が板橋区立熱帯環境植物館を見学、同館のインテリア・レイアウトが女子寮の大浴場の一つのモデルとなる(以降、女性部門・岩崎が三回見学)。三月二十一日、アスペルガー症候群女性代表と打合せ、数名の同症候群女性が女性部門に参加。

◆ **【科一】** 筑波大学 CAVE Lab. (ビジュアルサイエンス研究室) が実施する色聴者判定テストに回答

◆ **【芸一】** 東京大学大学院総合文化研究科教養学科・超域文化科学分科からの共感覚関連質問に回答。実施者のご要望により詳細は非公表。

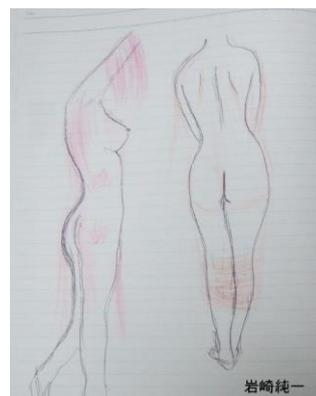
◆ **【科一】** 日本共感覚協会(東京大学大学院総合文化研究科、主宰は松田英子)に入会、同会からの共感覚関連質問紙(共感覚全般)に回答。

◆ **【芸一】** 大妻女子大学文学部日本文学科からの相談(日本人女性の色彩感覚とたまたまのこれから)について協力・提言。

◆ **【芸一】** メタバース「Blue Mars」に楽曲・効果音を提供。



◆ **【芸一】** 女性モデル様にご協力いただき、交響組曲『月ノ巡リ』の作曲を開始。



◆【芸二】「スラフオーリア」を日記や私とのメールで使用する人が増える。特に性的虐待を受けた解離性障害者女性による使用が目立つが、同時にそのことにより、私が考案した文法の不備も目立つ。

◆【芸二】精神障害者施設や女性寮の協力を得て、現代日本語の統語論・形態論に関する社会実験を実施。「二日間、用言の終止形を用いて発話してはならない」などの課題を課すもの。

◆【女性】六月一日、東北の女性らからの職業・鬱症状相談メールを機に、以後、女性部門メンバーや岩崎が仙台などに出向く形で対面を重ね、女性部門に東北女性ら加わる。

◆【総】七月二十二〜二十四日、旧メインサイトと旧ブログから新メインサイトと新ブログ（ブログはその後、内容をメインサイトに移動して閉鎖）に移転。

◆【芸二】十月一日、「音楽文化の創造（CMC）」五十八号（公益

財団法人音楽文化創造）の特集「音楽と心の科学」に寄稿。「音を「見る」ことがあってもいい」と「共感覚」とは何か」。



◆【人二】十月十五日、「精神疾患、精神病理学」特設サイトを開設。

◆【芸一】十月〜十一月、国民文化祭おかやまにて、提供した楽曲『丹頂（鶴）の舞』『夕麗』によるバレエ公演が行われた。振付・上演は岡山県バレエ連盟・岡山バレエカンパニーが担当し、地元公演となった。

◆【芸二】十一月二十四日、スラフオーリア研究会の特設サイトに「思想体系」や「文法解説」を掲載。

◆【芸三】旧華族の子女の自邸に所蔵されている『類聚名義抄』の写本や近代以降の複製本と思われる書物を調査。

◆持ち出せない典籍については、古書専門店などに原本複製本を特注し、自分で所蔵。和歌を詠んだり研究したりする際にも、歌語辞典として使えるため、余情会でも重宝している。

◆【芸三】石川県の花街（主計町芸妓・にし茶屋街芸妓・東山ひがし芸妓）より、花街の路地沿いにある歌碑・古詩の分析・解



積を依頼され、提供。

◆【芸三】平城遷都千三百年「平城遷都千三百年 余情会歌合」に和歌を詠進

（奈良県などによる平城遷都千三百年記念事業関連の公式サイトは閉鎖）

◆【芸三】余情会の次の歌会・歌合に参加。

『平成新詠天徳内裏歌合』、『湊川恋歌合』、『椎名町歌合』、『平成新撰和歌六帖』

第二十九章 二〇二一（平成二十三）年 二十八歳〜二十九歳

◆【総】岩崎をめぐる個人交流会・勉強会（一部の主催は岩崎自身）の開催が増加。本年元日には、東北の旅館女中や温泉街の娼婦が女性部門に参加、既存メンバーと岩崎に新年の挨拶。この頃より、サイトで扱っていること全てについての茶話会、散歩会などとして実施。岩崎をめぐるこれら単発での多数の勉強会・交流会を、

岩崎が「岩崎純一の個人交流会・勉強会」として取りまとめ、規約などの整備に入る。四月二十六日、「岩崎純一の個人交流会・勉強会」が正式発足。詳しくは、個人交流会・勉強会の解説を見よ。

◆【人二】三月五日（土）午後一時〜四時三十分、日本質的心理学会で講演。企画タイトルは「感覚の「異文化」から見る（からだ）と（ことば）〜共感覚、自閉症、幼児の体験世界〜」。岩崎の演題は「共感覚とは何か」。主催は日本質的心理学会研究交流委員会、京都大学人間・環境学研究所。司会は大倉得史（京都大学大学院人間・環境学研究所准教授）。会場はキャンパスプラザ京都4F第4講義室。

プログラム

司会 大倉得史

講演1 岩崎純一「共感覚とは何か」

講演2 西村多寿子「ことばとからだ〜共感覚者や音声工学研究に關わってきたナースの視点〜」

講演3 村上靖彦「眼光と夢〜原視線触発について」

指定討論 浜田寿美男

◆ 全集に、心の先端研究ユニットによる概要資料と、岩崎の講演部分の配布テキスト及びスクリーン映写テキストを収録済み。写真提供者：大倉得史准教授



◆【社二】東北地方太平洋沖地震及び東日本大震災が発生。その後、福島、宮城、岩手などの被災地域の医師や住民からの精神的な救済要請の相談が相次ぎ、やや心身が疲弊する。

◆【人二】十文字学園女子大学人間生活学部人間発達心理学科からの質問紙（対女性共感覚について）に回答。

◆【芸一】五月二十一日（土）、早稲田大学文学学術院・文化構想学部現代人間論系「共感覚論」（二〇一一年度春期、担当教員は草野慶子教授）にて、大学招聘講師として講義。全集に配布テキストを収録済み。

◆【芸二】五月二十二日、「疾病及び関連保健問題の国際統計分類（ICD-10）第五章 精神及び行動の障害」とスラフオーリアとの対応表（二〇一一年五月版）を公開。

◆【芸三】五月二十三日、合同勉強会「日本人の感性、日本語の特性・共感覚から考える」を実施。依頼者は大妻女子大学・駒沢女子大学の学生。全集に配布テキストを収録済み。

◆【芸一】五月二十八日、「共感覚などをめぐる私の動向（模式図）」を発表。

◆【科二】この頃、日本において脱法ドラッグ（現在は主に「危険ドラッグ」と呼ばれる）の流通と使用が急増。このブームに伴い、海外の共感覚研究の知見（LSD やシロシビンの摂取により共感覚が生じるなど）を日本のドラッグ使用者らが知った形跡がある。（「岩崎純一のウェブサイト」宛に、匿名で「どんな薬物を使えば共感覚を体験できるかご存知ですか？」などの質問が相次ぐ。質問自体には違法性を問えないため、質問の事実と解析したメールの送信元データ、および共感覚についての学術上の簡単な解説を厚労省・東京都・保健所・警察などに提供。）LSDなどの日本法における麻薬に加え、危険ドラッグに含まれる指定薬物をも共感覚体験に使用されるおそれが高まる。

◆【科一】五月三十日、著書『私には女性の排卵が見える 共感覚者の不思議な世界』（幻冬舎）が出版される。共感覚とオーラ診断との違いを厳密に解説。



- ◆ 【人二】六月十九日、合同勉強会「自己意識の減失・解体・分裂などを特徴とする精神疾患女性に見られる鋭敏な共感覚について」を実施。依頼者は武蔵野大学・十文字学園女子大学の学生。全集に配布テキストを収録済み。
- ◆ 【人二】六月十四日、「日本的共感覚人間学研究会」設置検討、決定。六月十九日、サイト内に会のページ作成開始。六月二十四日、正式に発足。「共感覚者和歌の会」がその下部サークルとなる。七月三日まで、当該ページ作成作業。
- ◆ 【社二】「岩崎純一さんのお話を聴く会」が発足。設立代表者は佐々美世子、上野紗奈、高島ひとみ。女子学生、社会人女性、主婦、シングルマザーなどが参加。実務は、一般の主婦らと、東京大学、大妻女子大学、共立女子大学、駒沢女子大学、帝京短期大学の学生らが担った。
- ◆ 【科一】早稲田大学基幹理工学部表現工学科(依頼者は大西楓子)の共感覚実験(音楽と色彩について)に参加。ネット上調査に回答。
- ◆ 【科一】早稲田大学先進理工学部物理学からの共感覚関連質問(素粒子と五感について)に回答・提言。
- ◆ 【科一】東京大学大学院農学生命科学研究科からの共感覚関連協力依頼(動物の共感覚の有無について)に協力・提言。
- ◆ 【科一】日本共感覚協会(東京大学大学院総合文化研究科、依頼者は松田英子)からの共感覚関連質問紙(数字と色の関係)に回答。
- ◆ 【科一】日本共感覚協会(東京大学大学院総合文化研究科、依頼者は松田英子)からの再度の共感覚関連質問紙(文字と色の関係)に回答。
- ◆ 【科一】合同勉強会の一環として、武蔵野大学看護学部看護学科からの共感覚関連協力依頼(生老病死と五感について)に協力・提言。全集にテキストを収録済み。
- ◆ 【人二】宮城・福島県の精神科・心療内科(精神科医・心療内科医)及び患者の主婦・女子学生・OLより、福島第一原子力発電所事故被災地域に居住していた女性に多発している恐怖症状・強迫症状対策について協力要請を受け、回答・提言。実施した医師の要望により詳細は非公表。
- ◆ 【人二】宮城・福島県の産婦人科(産婦人科医)及び患者の主婦・女子学生・OLより、福島第一原子力発電所事故被災地域に居住していた女性への偏見・差別対策について協力要請を受け、回答・提言。実施した医師の要望により詳細は非公表。
- ◆ 【科一】専修大学人間科学部心理学科(文学部心理学科から改組)依頼者・実施者は山上精次教授・榎本玲子・山下花緒)の共感覚実験に参加。成果論文は、「両耳分離聴による色聴共感覚の検討」

（乾吉佑教授退職記念号・専修人間科学論集・心理学篇（3）、51-60, 2013-03, 専修大学人間科学学会）。

◆【総・社二】七月一日、財団法人ラスキン文庫の事務局長に着任。

理事長からの委任のもと、一般財団法人への移行業務を定款作成から担当。これにより無事認可を受け、「一般財団法人ラスキン文庫」となる。以後も長期に亘り、法務、公益目的財産・公益目的支出計画等の管財業務およびシステム管理を、全評議員・代表理事・業務執行理事・平理事・監事からの委任のもと、一人で属人的に担当。一般法人への移行前の手続き不備は解消される。

◆ またこれにより、性被害女性居住施設などを運営する一般・公益法人や個人事業主からの依頼で、同内容の業務を支援。これらが、のちの女性局および女性現実研究所を構成する。

◆【総】七月七日、「Twitter」初登録。

◆【芸一】七月十六日（土）午後一時より、トークライブ「ザ・ギース尾関のいろいろ教えてもらえませんか4」に出演。会場は新宿ネイキッドロフト。十三時〜宮田弘樹・アリ。十四時〜岩崎・共感覚。十五時〜キングオブコメディ高橋健一のトーク。十五時二十分〜宇田道信・ウダー。なお、キングオブコメディの高橋健一について、客として来た一部の女性と女子高校生が、過去および当日に高橋から鞆の物色や痴漢行為があったとして、ライブ終了後に声を上げた。高橋は実際に、二〇〇七年に痴漢の疑いで逮捕されている上、このあと二〇一五年、東京都内の高校へ侵入し女子高校生の制服・体操服を盗んだとして逮捕された。その後、

高橋の自宅からは累計六百点の女性物の衣服が押収されている。一部の被害女性は、岩崎の活動の女性部門に参加した。また、窃盗が未遂に終わったと思われる制服や下着（指紋・遺伝子付着の可能性あり）の一部を連携女子寮が預かり、随時警察に提供した。これらの活動が、女現研内の女子高生ガーディアン活動へと拡充することとなった。

◆【科一】七月二十日発売のテレビ雑誌「TV Bros.」（七月二十三日号、東京ニュース通信社）のコーナー「わらしべマッドサイエンティスト」にインタビュー記事が掲載される。

◆【科一】「超音波知覚者コミュニティ」が発足。岩崎純一、深田綾乃が主催。のちに「超音波知覚者コミュニティ東京」と改称。

◆【人二】七月二十六日、人間学研究会の内容をメインサイトに組み入れ。

◆【芸二】専修大学文学部日本文学文化学科からの共感覚関連質問に回答。

◆【芸一】帝京短期大学食物栄養専攻栄養士コースからの質問（日食について）に回答・提言。

◆【芸二】八月二十日、和歌投稿サービス「うたのわ」に登録、既存歌を投稿。サイトの和歌ページも更新。

◆【芸一】和歌の会「余情会」および伝統遊戯の会「糸姫会」の歌合・貝合に使用する楽曲を作曲、提供。八月三十一日、余情会会合で今後の方針検討、耽美派を前面に出す意向のメンバー多く、面白いためこの方針固まる。

- ◆【社二】八月二十二日、二十五日、二十九日、岩崎純一さんのお話を聴く会特別講話会「日本の女性の情緒について」にて講演。主催者は佐々美世子、上野紗奈、高島ひとみ。会場は非公開の女性寮、女性シェアハウス、女性専用施設。岩崎の著書の読者である主婦・学生・OLの有志の方々の発案で招聘され、講話を行った。全集に講話全文テキスト（録音の文字起こし）を収録済み。
- ◆【芸二】「スラフォーリア（スラポリヤ）」を「岩崎式日本語」に改称。「スラフォーリア（スラポリヤ）研究会」も「岩崎式日本語研究会」に改称。当時の主催は、岩崎純一、江波戸優花、青柳香織。閉鎖型・情報隠蔽型（コンフィデンシャル型）の性被害・DV被害女性専用施設（シェルター、ソーシアルアパート、女子寮）において、日記・手記の執筆や日々の生活などに岩崎式日本語が使用されるようになる。
- ◆【芸三】大妻女子大学文学部日本文学科からの和歌関連質問紙（和歌創作時の感覚と心理について）に回答。
- ◆【女性】八月三十日、メインサイトの勉強会を会員制にするかを既存の中心メンバーと岩崎で検討。まだある程度門戸を開いておくものの、過渡期として、九月五日、サイトに特別会員専用掲示板を設置。事実上、女性部門、のちの女性局専用の相談・連絡網。
- ◆【総】十月十七日、メインサイトのレイアウト・デザインを一新。コンテンツを拡充。
- ◆【人二】十一月六日、勉強会「就学・就職活動・就業を回避する一部の現代日本人の鬱症状・不安症状についての社会科学的・宗
- ◆ 教学的分析の一案」を実施。依頼者は鬱病患者の男性数名。会では、依頼の理由となった岩崎の論述、「なぜ戦後日本人のうち「一部のみ」が「確実に」鬱や社会不適應になるのか」「宗教儀式」としての戦後日本社会、「宗教儀式批判」としての鬱と社会不適應」を配布。全集にこのテキスト（参考模式図、その一、その二、その三）を収録済み。
- ◆【芸一】十一月、NHK総合『爆笑問題のニッポンの教養』にて「FILE165：世界はもつとカラフルだ！〜共感覚のフシギ〜」が放映される。番組が制作されるにあたり、インタビュ取材に協力。（出演：関西学院大学理工学部 人間システム工学科 長田典子教授）
- ◆ 余情会の次の歌会・歌合に参加。岩崎が開闔（かいこう）に就任。『新水無瀬恋十五首歌合』、『江戸川橋恋二帖』、『八丁堀桜川恋歌合』、『平成初花女達歌合』、『新詠建久百首和歌』
- 第三十章 二〇二二（平成二十四）年 二十九歳〜三十歳
- ◆【総】「岩崎純一の個人勉強会・交流会」の最盛期。
- ◆【科二】日本共感覚研究会のサイト、及び、共感覚や精神医学を主として扱う個人サイトとしての「岩崎純一のウェブサイト」への訪問者や著書の読者から、同サイトのメール宛てに、共感覚をめぐるセラピスト急増問題に関する心理的・身体的・金銭的な被害や、共感覚児童に対する学校でのいじめや親からの虐待被害に



◆【芸三】『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』の制作を

◆【芸三】四月十六日～十二月三十一日、NEXCO 西日本の古事記編纂千三百周年「やまとごころ周遊記」に和歌を提供。

◆【芸三】三月一日、『ラスキン文庫たより』第六二号に「研究資料のアーカイブズ ― 知の遺産 その継承に向けて ―」に参加して」を寄稿。

◆【芸三】『新純星余情和歌集』全解釈プロジェクト」が発足。主宰は岩崎純一、長満たき、青柳香織、戸井留子。

◆【総】三月五日、『新純星余情和歌集』のページを更新&人員募集。

旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧

開始。神社・社家の巫女、歌道家・旧公家・旧貴族・旧華族の子
女、旧宮家・門跡の子女、花街の芸妓・舞妓のご協力を賜る。

◆【科一】日本共感覚協会（東京大学大学院総合文化研究科、依頼者は松田英子）の共感覚実験（数字と色の関係）に参加。事前に同実験の二つのネット上調査
(<http://synn-japan.candypop.jp/q.html>、
<http://synn-japan.candypop.jp/q-2months/page/page35.php>、閉鎖）に参加。

◆【科一】東京大学理学部の共感覚実験に参加。実施した研究者・学生の指導教官の要望により詳細は非公表。

◆【科一】筑波大学 CAVE Lab.（ヒジューアルサイエンス研究室）、会津大学コンピュータ理工学部数理情報科学講座（浅井信吉上級准教授）が実施する共感覚判定テスト及び色字者判定テストに回答。

◆【芸二】六月十五日、岩崎式日本語研究会が一時休止。数年うち

第三十一章 二〇一三（平成二十五）年 三十歳〜三十一歳

- ◆ 【総】前年に引き続き、「岩崎純一の個人勉強会・交流会」の最盛期。
- ◆ 【総】四月二十五日、Twitterからの自動投稿を停止。
- ◆ 【芸二】四月二十八日、『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』をサイトに掲載。
- ◆ 【芸一】六月六日、サイトへのご訪問者の統計などを更新。
- ◆ 【芸二】創作文明「寿羅穂里阿文明」が発足。主宰は岩崎純一、武田あさる、高橋夕花。
- ◆ 【芸二】六月二十三日、岩崎式日本語文集【共同編集】ページを公開。
- ◆ 【総】六月二十九日、Twitterの過去ログの保存ページを設置。
- ◆ 【総】七月二十二日、サイトのレイアウトを変更。
- ◆ 【人二】七月二十五日、「直観像記憶と共感覚」のページを設置。
- ◆ 【総】八月二日、サイトにBBS（掲示板）を設置。
- ◆ 【総】九月二十六日、サイトをリニューアル。
- ◆ 【総】九月二十七日、サイトを大幅に変更。
- ◆ 【社二】「続 岩崎純一さんに会いたい会」が発足。当時の主催は上野紗奈、曽我部丹佳、小山由香。「岩崎純一さんのお話を聴く会」や「岩崎純一さんに会いたい会」の参加者による継承。
- ◆ 【社二】「岩崎純一さんとの合同勉強会」が開催される。依頼者は昭和女子大学・大妻女子大学・駒沢女子大学の学生。学生・OL・主婦に講話、その後対話の時間。
- ◆ 【社二】「続 岩崎純一さんに会いたい会」が開催される。依頼者は早稲田大学・武蔵野大学・昭和女子大学・共立女子大学の学生。学生・OL・主婦に講話、その後対話の時間。
- ◆ 【社二】「岩崎純一さんのお話を聴く会」が開催される。依頼者は佐々美世子、上野紗奈、高島ひとみ。学生・OL・主婦に講話、その後対話の時間。
- ◆ 【科一】東京大学大学院人文社会系研究科（文学部）心理学研究室（統合的認知研究グループ、横澤組、旧高次視覚研究グループ）が実施する共感覚についての実験・インタビューに参加・回答。実施者は横澤一彦教授、浅野倫子特任研究員。最初にネット上の共感覚調査アンケートに回答。後日、改めて東大の研究室において実験・インタビューを受けた。
- ◆ 【科一】東京大学教育学部の共感覚についてのインタビューを受けた。実施した研究者・学生の指導教官の要望により詳細は非公表。
- ◆ 【科二】「日本共感覚関連連動向調査会」が発足。主宰は岩崎純一、山本幸子、樋川夜涼。前述の共感覚をめぐる悪質セラピーなどの問題に加え、日本の共感覚研究者・共感覚者界限で覚醒剤・麻薬・危険ドラッグ使用者の存在を岩崎とスタッフが初めて確認したことによる。将来的に「日本共感覚学会」の設立を展望するため、一般法人や公益法人の法務に長じた者を役員として組織・定款等が臨時総会において承認される。

◆【科二】十二月二十六日、アクセス解析データ書庫を公開。

◆【芸三】男系断絶している地方の神社の社家の巫女・子女や尼門跡（旧比丘尼御所）の子女より、当主・男性が遺した家宝の和歌について、不明な部分の分析・解釈を依頼され、提供。

家系・・・御巫（みかんなぎ）家、御巫（みかんこ）家、大祝（おおほうり）家、上社・上許曾（かみこそ）家、斎田・伊豆田（いつきだ）家、青柳（あおやぎ）家、江波戸（えばと）家、北川家、一条家、吉川家、猪苗代家

◆ 概要は、『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』の「歌道及び勅撰和歌集の成立」の「斎王（斎宮）歌壇」・「齋院歌壇」、「巫女・比丘尼・芸妓・女将の歌壇」、「上流家庭の女性の歌壇」、「家政婦・民間女性歌壇、女子大学日本文化学科」にも記載。

◆【芸三】明治女性歌人の末裔の子女より、自邸に所蔵されている各鹿鳴歌会（鹿鳴歌会、輪島鹿鳴歌会、丹後鹿鳴歌会、相模鹿鳴歌会）の歌集・資料の分析・解釈を依頼され、提供。概要は、『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』の「上流家庭の女性の歌壇」にも記載。（写真は一九四〇年頃の鹿鳴館黒門。パブリック・ドメイン。）鹿鳴館（Wikipedia）（写真出典）



第三十二章 二〇一四（平成二十六）年 三十一歳〜三十二歳

◆【人二】「新人間学研究会」が発足。主宰は岩崎純一、青柳香織、武田あさる、発達障害男性ら。当初、自閉症男性の人間観・世界観に基づく未来年表を作成・掲載。のちに「岩崎人間学研究会」に改称。

◆【芸一】二月二十七日、音楽のダウンロード販売を開始。

◆【科二】四月七日、「Internet Explorer 6〜8 (XP 向けの8のみ) 以前でのサイト閲覧についてのお知らせ」を掲載。

◆【科二】四月十九日、Sketchfabに共感覚などの3Dコンピュータグラフィックス（CG）を公開。

◆【科二】五月十二日、3D共感覚ゲームを制作・掲載。

◆【科二】五月十八日、3D共感覚ゲーム「あいいうえお玉入れ」を

- 掲載。
- ◆【科二】六月十九日、3D共感覚ゲーム「数字ボウリング」を掲載。
 - ◆【総】七月七日～三十一日、ブログ・サイト内容の全面見直し、修正。
 - ◆【社一】七月二十三日、児童虐待や暴力に関する相談の増加に伴い、「ご連絡・メールを頂く際の留意事項」を拡充。
 - ◆【社二】七月二十六日、前述に引き続き、児童虐待や暴力に関する相談の増加に伴い、「精神病理学・精神疾患の研究」の「今までの交流の概要」及び「当サイトにおける精神疾患者等の個人情報」の扱い、およびDV・暴力・虐待等の加害者への対策について」を拡充。また、「岩崎式日本語」の「岩崎式日本語のユーザーの概要」及び「岩崎式日本語使用者の方々へ」を更新。
 - ◆【科二】八月十二日、「サイト制作環境等」に「不正アクセスやサーバー事業者の破綻への対策」を追加。
 - ◆【科二】八月三十一日、サイトのCMSプログラムとデザインを変更。
 - ◆【人二】九月十八日、サイトに人間学・哲学全般のページを設置し、ここに未来年表を設置。
 - ◆【芸二】九月十八日、言語学・言語体系考案のページに、言語についての考え方、現代日本語に関する実験のページを設置。
 - ◆【人二】十月十三日、女性自助サイト「心・生きること・言葉」及び「女性の回り道」より依頼を受け、これらのサイト内容を岩崎のサイトの「精神病理学・精神疾患研究」や「岩崎式日本語」へ統合。これら女性サイトは、岩崎への心身問題の相談者や岩崎式日本語の使用者が運営者であったもの。精神病理学・岩崎式日本語のTwitter・ブログも整理。
 - ◆【人二】十月十三日、右により、「精神病理学・精神疾患研究」内の不安障害・恐怖症・強迫性障害・PTSD・解離性障害・人格AパーソナリティV障害のページを大幅更新。
 - ◆【芸二】十月十三日、右により、「岩崎式日本語」内に「文法解説（使用頻度の高い精神疾患者向けのステップ型解説）」を追加。
 - ◆【芸一】『絵画を理解するための三つの契機』を作曲（アーティスト、岡崎莉望様の絵画とのコラボレーション）。
 - ◆【総】十月十八日、「個人メール」と「仕事のご依頼メール」のページを更新。「サイト制作環境等」を更新。
 - ◆【科二】十月十八日、「超音波知覚者コミュニティ東京」内に「注意勧告」当コミュニティが疑似科学団体やテクノロジー犯罪被害者団体と友好関係にあるかのように紹介されている事例に対する注意勧告、および統合失調症や妄想性障害の既往歴・現病歴の確認のお願い」を追加。
 - ◆【総】十月二十四日、本日よりメインサイトの更新情報が、メインサイト、更新情報ブログ（本ブログ）、Twitter に自動投稿されるように設定。（メインサイトのCMSやPHP・JavaScriptプログラムの改造による。）二〇一五年半ば以降、停止中。
 - ◆【総】十月二十四日、前述用の更新情報ブログ（本ブログ）を設定

置。過去の数回の更新情報をさかのぼって本ブログに掲載済み。

◆【総】十一月九日、サイト内の一部の私の著作物について、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスを適用。この旨の詳細をサイトの「法令に基づく表示」内に記載。

◆【社二】「岩崎純一さんとの合同勉強会」が開催される。依頼者は大妻女子大学・駒沢女子大学の学生。学生・OL・主婦に講話、その後対話の時間。

◆【社二】「続 岩崎純一さんに会いたい会」が開催される。依頼者は武蔵野大学・昭和女子大学・十文字学園女子大学の学生。学生・OL・主婦に講話、その後対話の時間。

◆【社二】「岩崎純一さんのお話を聴く会」が開催される。依頼者は佐々美世子、上野紗奈、高島ひとみ。学生・OL・主婦に講話、その後対話の時間。

◆【科一】東京大学農学部の特感覚実験に参加。実施した研究者・学生の指導教官の要望により詳細は非公表。

◆【科一】東京大学大学院総合文化研究科の特感覚実験に参加。実施者の要望により詳細は非公表。

◆【芸三】山形県の花街（やまがた舞子・酒田舞娘）より、代々伝わる（近代舞子発祥以前の）古書の和歌の解釈や、花街の路地沿いにある歌碑・古詩の分析・解釈を依頼され、提供。

◆【芸三】和歌結社「女流秘伝」の廃絶にあたり、和歌の記録・保存に協力。概要は、『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』の「家政婦・民間女性歌壇、女子大学日本文化学科」の「女流秘

伝」にも記載。

第三十三章 二〇一五（平成二十七年）年 三十二歳〜三十三歳

◆【総】一月一日、サイト公開十一年目。

◆【芸一】一月一日、共感覚の公表十年目。

◆【芸一】一月七日、「知覚・共感覚」のページを整理。従来の「基本的な共感覚」のタイトルを「基本的な共感覚（二〇〇五年の初公表時の内容）」に変更。従来の「知覚・共感覚」のトップページを「基本的な共感覚の続編（詳細な画像・動画）」のページとして設置し直し。（動画にリンクして重たかったため、トップからは外したが、内容は同じ。）「直観像記憶と共感覚」にYouTube動画を追加。

◆【総】一月十七日、サイト公開十一年目、共感覚の公表十年目日記念として、サイトのサブタイトルを“Niches of Episteme”（知のすきま）とし、「プロフィール」ページに解説を掲載。

◆【芸一】一月一九日、共感覚公表十年目の記念コンテンツ「共感覚記憶データベース」を公開。「知覚・共感覚」のページに、アップしていなかったものをまとめてアップした。一月七日の更新からさらに「基本的な共感覚の続編」を整理し、一部を新設した「応用的な共感覚」のページに移動。「応用的な共感覚」に新たな共感覚の例を掲載。（将棋、地図、自動車、鉄道、数学など）これらの共感覚の例を「共感覚記憶データベース」と名付けて整

- 理し、データベースのトップページからリンクしたほか、「データベースのフロアガイド版」や「3D映像操作版」も作成。「知覚・共感覚」の左メニュー欄に「私の知覚世界の解説など」と「著書・文書保管庫（共感覚関連多数）」へのリンクを追加。
- ◆【芸一】二月二六日、インターネット上における岩崎の成りすましの増加について、「閲覧者の皆様へお願い」を掲載。
- ◆【芸一】二月八日、「知覚・共感覚」内に「共感覚に関連する知覚状態・症状の一覧」ページを設置。
- ◆【科二】二月十七日～三月十三日、サイトの構造部分を大幅に改訂。二月二十二・二十三日、三月二十三日～四月二日、四月八日～、サイト・ブログデザイン変更。詳しくは「当サイトの構造の改訂内容一覧（マークアップ言語、プログラム）」を参照。
- ◆【総】四月二十四日、岩崎純一知的財産目録・アーカイブ（仮称）作成案が初めて持ち上がる。
- ◆【科二】四月三十日、「サイト制作環境等」を更新。「アクセス解析データベース」の解説を更新。（その後、二〇一四年以降の年毎のデータは非公開とし、アクセス解析自体と全般のアクセスデータの公開は継続。）
- ◆【科一】五月七日、「超音波知覚者コミュニティ東京」の各ページを更新。「都内超音波スポット報告マップ」にスポットを追加。「最近の超音波事情」に「タヌキ・コウモリの在野研究者 宮本拓海氏からの情報提供」を追加。「超音波発生装置過密地区の散策と迂回路の探索」に加筆。「公正取引委員会・消費者庁による法的処分、科学者による警告等」を改訂。
- ◆【総】五月八日、「自己紹介・活動内容」を更新。「訪問者の方々向けのご留意事項」を更新。
- ◆【芸一】五月十一日、「知覚・共感覚」のページを更新。「共感覚に関連する知覚状態・症状の一覧」に加筆。「知覚・共感覚関連リンク」に「超音波知覚関連サイト」へのリンクを追加。
- ◆【科一】五月十一日、「超音波知覚者コミュニティ東京」の各ページを更新。「最近の超音波事情」の「タヌキ・コウモリの在野研究者 宮本拓海氏からの情報提供」に加筆。「超音波発生装置過密地区の散策と迂回路の探索」に加筆。
- ◆【人二】五月十三日、「精神病理学・精神疾患研究」のページを更新。「精神疾患の定義」に加筆。
- ◆【科一】五月十七日、「超音波知覚者コミュニティ東京」のページを更新。「報告者、超音波機器、注意事項」の以下の項目に加筆。「扱っている超音波発生機器」「求めている情報」「最低限の音声学的・物理学的知識の学習のお願い」「心地よい超音波と不快な超音波」
- ◆【科二】六月十五日、「日本共感覚関連動向調査会」から「日本共感覚研究会」への改称が決定する。
- ◆【芸一】七月一日、日本大学芸術学部文芸学科でゲスト講師として授業・ゼミを行う。江古田校舎にて。インタビュー形式の講義や対談として行った。内容は、七月六日の内容の概要。
- ◆【芸一】七月六日、日本大学芸術学部文芸学科でゲスト講師とし

て授業・ゼミを行う。所沢校舎にて。インタビュー形式の講義や対談として行った演題は「文学と共感覚について」。担当教員は清水正教授（藝術学部図書館長、文芸学科教授）、山下聖美教授（文芸学科教授）。山下教授からの全般的な協力要請内容は、「林芙美子、尾崎翠などの文学作品にみられる表現の解読についての専門的知識の提供」（特に、共感覚表現、嗅覚表現）。三限目「原書講読」においては、岩崎の共感覚を軸に、(一) 自分の感性と社会で暮らす決まりとのギャップ、(二) 日本語、英語と自らの感性の関係について述べた。五限目においては、まず清水正教授との哲学に関する対談を行い、その後、共感覚、サヴァン症候群、学習障害、宮沢賢治、ニーチェ哲学、ハイデガー哲学、言語、ゲーデルの不完全性定理などについて学生に講話し、質疑応答の時間を設けた。

◆
【芸三】男系断絶している武家の宇都宮氏（旧神職。武家に転身し、宇都宮城を本拠とした）の庶流・末裔の巫女・子女が所蔵・保存する古書の和歌や日記について、不明な部分の分析・解釈を依頼され、調査・提供。

家系・・・下野宇都宮氏、伊予宇都宮氏、豊前宇都宮氏、尾張宇都宮氏、城井宇都宮氏（現在は主に、宇都宮、伊予、城井、藤原の苗字を名乗るが、詳細不明。）

概要は、『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』の「地下伝授」の「後期宇都宮歌壇」にも記載。

宇都宮氏 (Wikipedia) (家紋画像出典)

宇都宮氏（戦国大名研究）（家紋画像出典）



◆
【芸三】旧斎王（斎宮・斎院）の断絶と、現代における葵祭の「斎王代（賀茂斎院）」や斎王まつりの「斎王」、一部の神社の「斎王代・斎宮代・斎院代」としての復活、および新旧両者の立場や歌道・歌集（家集）伝授の現状について、旧斎王（斎宮・斎院）系の末裔の子女（現在は全員が非皇族）と現代斎王（斎宮・斎院）系の支援者・市民より情報提供を依頼され、提供。

概要は、『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』の「歌道及び勅撰和歌集の成立」の「斎王（斎宮）歌壇」・「斎院歌壇」、「巫女・比丘尼・芸妓・女将の歌壇」、「上流家庭の女性の歌壇」、「家政婦・民間女性歌壇、女子大学日本文化学科」にも記載。



◆
【科二】七月十六日、「日本共感覚研究会」が正式発足。主宰は岩崎純一、山本幸子、樋川夜涼。前述の調査会を改組する形で発足。共感覚研究そのものではなく、共感覚研究者・共感覚者の倫理や覚醒剤・麻薬・危険ドラッグ使用の実態の追究団体に明確に移行。

◆【科二】七月二十五日、「日本共感覚研究会」を岩崎の勉強会に統合する旨の要望書が出される。

◆【芸三】尾崎翠生誕百二十年プロジェクトとして、三月、『尾崎翠を読む』（編：尾崎翠フォーラム実行委員会、発行者：尾崎翠フォーラム実行委員会代表 土井淑平、出版社：今井出版）が出版される。

講演編Ⅱにおいて、日本大学の山下聖美教授が「尾崎翠と宮沢賢治・二人の不思議な感覚世界」と題し、岩崎が保持しかつ研究している「共感覚」に言及。とりわけ、尾崎翠の『第七官界彷徨』の知覚世界を解明する鍵として「共感覚」を取り上げ、岩崎による古代の「におい」論を紹介。

（「尾崎翠フォーラムB鳥取」は、土井氏を中心に、二〇〇一年より本年まで十五年間開催された。）

また、土井氏が左記において、「尾崎翠の魅力」と題し、山下教授の講演および岩崎の研究に言及。

http://www.phai-totori.com/index.php?web01_d

（「尾崎翠の魅力」土井淑平、『ファイ phai φ 人文学論集鳥取』電子版、No.01、二〇一六年 立夏号、五月十日：発行）

◆【科二】七月三十日、岩崎が右記の件を承諾し、「日本共感覚研究会」が岩崎の勉強会に統合される。

◆【総】八月三日～八日、「岩崎純一の個人交流会・勉強会」の入会許可書、会員名簿、入会案内ページ、メールフォーム準備。これに基づき、八月十三日、会の運営形態を整備・拡充。

◆【科二】八月十三日、政府等が主導し公金・税金が投入される共感覚イノベーション事業等の「感性」産業について、「日本共感覚研究会」がその無駄と裏金の実態の調査を開始。

◆【科一】十月十二日、「バットディテクター（コウモリ探知機）を用いた池袋・丸の内地区の超音波装置の設置箇所などの探索・特定および岩崎純一代表の超音波知覚の検証のためのフィールドワーク」を公開。

◆【科一】十二月二十二日、超音波知覚者コミュニティ東京の活動を取り上げたニコニコ学会αの動画が公開される。

◆【芸一】様々なアーティストの展覧会や個展などに、作品の一部やBGMとして楽曲を提供することが増える。以後継続。

◆【芸二】十二月二十三日、「岩崎式日本語ペディア」が発足設置。主宰は岩崎純一、武田あさひ、高橋夕花。ネット使用制限の厳しいコンフィデンシャル型の性被害・DV被害女性専用のシェルター、ソーシャルアパート、女子寮間での百科事典としての閲覧・使用を可能にするため。のち、「岩崎式言語体系ペディア」に改称し拡充。岩崎式日本語の使用者の多くを占める性被害者施設やDVシェルターの女性スタッフによる編集協力を可能にした。岩崎式日本語を中心とする文芸体系の創作も計画。

◆【総】十二月二十三日、二〇一五年末の一斉送信メールを送信。

第三十四章 二〇一六（平成二十八）年 三十三歳～三十四歳

◆【科一】一月二十五日、「サイエンスニュース」に、超音波知覚者として受けたインタビュー記事「ネズミ駆除器の音が聞こえる！ 超音波知覚者の憂鬱」が掲載される。

◆【総】二月十七日、「岩崎純一さんとの合同勉強会」、「岩崎純一さんのお話を聴く会」、「続 岩崎純一さんに会いたい会」の女性三サークルにより、「岩崎純一研究会」が発足。岩崎純一を研究している研究者リストを掲載。二十年計画を作成（後日、研究会と日本大学藝術学部の先生方に配布）。

◆【総】三月十九日、「自己紹介・プロフィール」を更新。「私が講義・ゼミ・講演・講話会・実験協力などを行った大学などへのリンク」を更新。「メールフォーム」を拡充。「協力者編集用CMS（コンテンツ・マネジメント・システム）」を拡充。「日本共感覚研究会」が全面的に「岩崎純一のウェブサイト」の活動の一角に収まるに伴い、そのサイトを「岩崎純一のウェブサイト」に吸収し、アドレスも変更。「サイト制作環境等」を更新。

◆【総】三月十九日、「岩崎純一研究会」のサイトが公開された。（二〇一八年一月八日 追記：岩崎の主導で「岩崎純一学術研究所」を設立してからは（研究会を吸収）、研究会のサイトは閉鎖され、二〇一七年四月に <http://iwasakijunichi.net/jikenkyujo/>へ発展的に移動することとなる。）

◆【総】岩崎と女性サークルとの論議により、女性サークルを中心とする「岩崎純一研究会」ではなく、岩崎を中心とする「岩崎純一学術研究所」設立の計画を開始。「研究会」計画は中止。岩崎

と、「岩崎純一さんとの合同勉強会」、「岩崎純一さんのお話を聴く会」、「続 岩崎純一さんに会いたい会」の女性三サークルにより、岩崎の著作物のアーカイブ化が提案され、岩崎を中心に作業を進めた。

◆【総】四月二日、「活動総覧」を更新。「掲載媒体」を更新。

◆【科一】四月四日、超音波知覚者コミュニティ東京の活動の一環として、東京大学大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻の峯松信明准教授と共につくばの産業技術総合研究所（AIST）を訪問。

◆【科一】四月十日、「超音波知覚者コミュニティ東京」の各ページを更新。都内超音波スポット報告マップの見方などを更新。産業技術総合研究所（AIST）への訪問記録を追記。

◆【科二】四月十五日、「サイト・コンテンツ閲覧推奨環境」に Windows 10、Microsoft Edge を追加。

◆【芸一】四月十九日、日本大学藝術学部文芸学科の「文芸特殊研究Ⅰ」の特別講座に講師として招聘され、講義。江古田校舎にて。演題は「共感覚的視点からみる文学と哲学」。担当教員は山下聖美教授。共感覚、日藝創設者の松原寛などについての講義を行った。

◆【芸二】四月二十一日発売の「女性セブン」（五月五日号、小学館）に、岩崎の共感覚についてのインタビュー記事「ジントイのフシギ発見！ 私にはこのページがカラフルに見えています」が掲載される。小見出しは、「文字や物に色が重なる人も 五感が

繋がる「共感覚」とは？、「文字に色がついて見える共感覚者の親は「天才かも」と考える」。また、ウェブ上でも記事の一部を無料で閲覧可能。

◆【社二】四月三十日、「非公開シエーター型女性シェアハウスとのコンテンツ連携について」を公開。「シェアハウス型女性寮 コンフィデンシャル・レディース東京」のサイトシステムを構築・提供し、連携体制をとる。（二〇一八年一月八日 追記）二〇一七年十月二十九日に <http://wasakijunichi.net/women/>へ移動。

連携内容については、「共感覚に関連する知覚様態・症状の一覧」や「精神疾患研究」内の各疾患・障害の解説ページで解説した。また、これらのページに、当該女性寮のサイトへのリンクを設置。

◆【総】五月～六月、「活動総覧」を更新。

◆【社一】五月～六月、「大日本帝国陸軍岡山歩兵第十連隊・岡山近衛兵将校子孫会（岡将会）」が発足。「大日本帝国陸軍岡山歩兵第十連隊・岡山近衛兵将校子孫会（岡将会）」のページを設置。会員は岩崎純一、北川良子、一条みさお、道満幸江、吉川りせ。岩崎の戦史・郷土史の研究の一環として、郷土岡山の戦争史、とりわけ旧大日本帝国陸軍の岡山歩兵第十連隊や岡山県出身の近衛兵将校について研究。前述の和歌に関する活動を共にする歌人も協力。

◆【科一】五月～六月、「超音波知覚者コミュニティ東京」の「扱っている超音波発生源」のページのモスキート音装置の説明を拡充。

◆【芸一】六月二十日、日本大学芸術学部文芸学科の「文芸研究Ⅰ」及び「原書講読」での講義に講師として招聘され、講義。所沢校舎にて。演題は「共感覚と文学」。担当教員は山下聖美教授。山下教授からの全般的な協力要請内容は、「共感覚者である岩崎氏による文学者と感性についての専門知識の提供と共感覚で文学を読み解く方法のご教示」。共感覚、日藝創設者の松原寛などについての講義を行った。

◆【人二】七月七日、日本大学芸術学部図書館刊行誌に論考を執筆。「松原寛哲学の真髓 ・ 日本大学芸術学部」に築かれた「聖なる総合文化」としての「日芸」・「日藝ライブラリー 日本大学芸術学部図書館活動誌」No.3 特集「日本大学芸術学部創設者 松原寛 日芸魂の源流」、日本大学芸術学部図書館、七月七日発行）。無料配布。在庫あり。



◆【芸二】七月九日、「和歌・古典」の「和歌の提供歴、調査研究」

仕事歴」を更新。

◆【芸三】御巫（みかんなぎ）家、大祝（おおほうり）家、上社・上許曾（かみこそ）家、大社（おおこそ）家のそれぞれの社家（神社の巫女を輩出）の廃絶の危機にあたり、当該家系の巫女・子女が逝去した当主から継承し所蔵・保存している古書の和歌・日記について、不明な部分の分析・解釈を依頼され、提供。

◆家系は、ほとんどが男系断絶。女兒しか誕生していないか（四人姉妹、五人姉妹もいる）、または成人した巫女・子女のほとんどが老若を問わず未婚。（ただし、現在も御巫、大祝、上社・上許曾、大社の苗字を名乗る。）

◆概要は、『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』の「巫女・比丘尼・芸妓・女将の歌壇」の「皇統と無関係の大規模の神社・社家の巫女」にも記載。

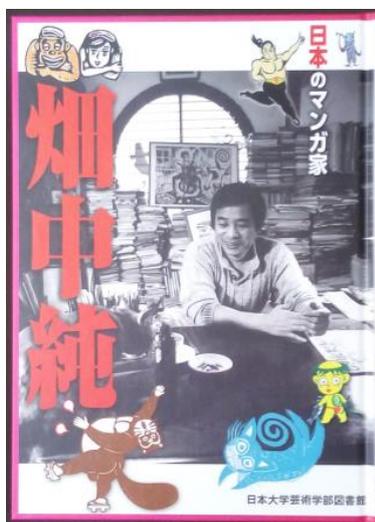
◆【芸三】大日女尊神社（兵庫県神戸市東灘区西岡本）の境内にある、建立の経緯や出典が不明の歌碑（石碑）の和歌の分析・解釈を依頼され、提供。

◆【総】七月二十四日、八月六日～八日、二十七日、サイト全体（メイン、岩崎純一研究会、コンフィデンシャル）のデザインを改定。後者二つのサイトは、岩崎純一CMSで寮内から女性らが編集。

◆【芸二】八月十日～九月一日、岩崎式言語体系。ペディアとQ&Aページを充実、英語化。九月一日、言語学系BBSのUnilangとTheCBBに投稿。

◆【芸一】八月十五日、日本大学芸術学部図書館刊行誌に論考を執

筆。「ユートピアとアンチユートピアの融合を目指して - 畑中純の描いたアンチユートピア「九鬼谷温泉郷」から現代を眺める」（「日本のマンガ家 畑中純」、日本大学芸術学部図書館、八月十五日発行）。無料配布。在庫あり。



◆【芸二】八月二十一日～、岩崎式日本語特設サイトを制作開始。九月十五日、設置。人工言語一般に関する説明も掲載。九月十七日、完了。本サイトは関根ひかりの提案による。岩崎の活動でありながら、岩崎のメインサイトから完全に独立したサイトは、これが唯一である。但し、岩崎純一学術研究所サイトについても立ち上げ時相談。

◆【社一】十月一日、『ラスキン文庫たより』第七二号に「MANY BEAUTIFUL THINGS 上映会」を寄稿。

◆【総】十月二十九日、サイトデザイン更新。

◆【総】十一月十四日～二十一日、岩崎純一研究会が岩崎純一学術

研究所に吸収され、発展的解消。十九日、研究所のサイトを公開。但し、岩崎純一総合アーカイブの公開までは、岩崎純一のウェブサイト内の特設サイトの一つとして仮公開。

◆【総】十二月十一日、二〇一六年末の一斉送信メールを送信。

◆【総】十二月二十二日、岩崎純一知的財産目録・アーカイブ（仮称）公開準備。

第三十五章 二〇一七（平成二十九）年 三十四歳〜三十五歳

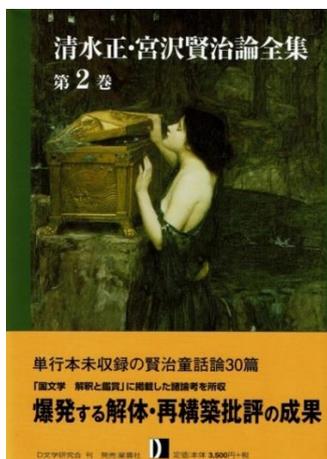
◆【総】一月一日、岩崎の全学術体系のアーカイブ化の試みをメインサイトにも反映。名称を「岩崎純一総合アーカイブ（著作物・私蔵貴重書目録及びリポジトリ）」とし、英語名を「IWASAKI JUNICHI COMPREHENSIVE ARCHIVE (IJCA)」として、

一月十二日までに順次公開した。この時点では、【0】岩崎純一機密重要事項アーカイブ（のちの【0】系に継承。一部は依然として機密）、【1】岩崎純一著作物アーカイブ（目録及びリポジトリ）、【2】岩崎純一私蔵貴重書アーカイブ（目録）のみが含まれた。その後、日本十進分類法（NDC）を参考にして岩崎の著作物を分類し、組み替えて引き続き公開を続けた。

◆【総】一月十二日、「岩崎純一総合アーカイブ」を正式公開。「岩崎純一著作物アーカイブ」と「岩崎純一私蔵貴重書アーカイブ」とに分かれ、まずは前者を公開した。後者については、数年先の見込みとなった。

◆【芸二】二月十一日、「第五期岩崎式日本語に向けて（一）要望のまとめと計画の概要」を掲載。

◆【芸三】三月一日、『清水正・宮沢賢治論全集 第二巻』（D文学研究会）に「日本の新しい時代と社会における「宮沢賢治感覚」の探究について」を寄稿。



◆【芸一】関根ひかりの映像芸術作品「Lesson」に参加。映像及び読み上げテキストは関根ひかりのサイトに掲載されている。

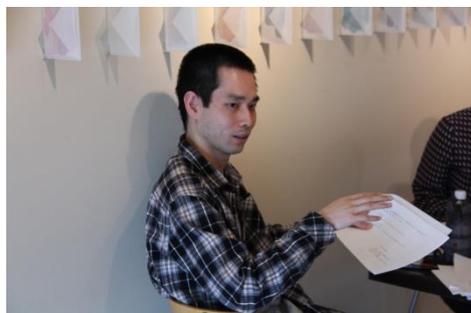


◆ **【芸二】**三月六日、「関根ひかり×岩崎純一 トーク・イベント」（全四回）のお知らせを掲載。

◆ **【総】**三月十二日～十六日、サイトを緑基調からモノクロ基調に。

◆ **【芸二】**三月十八日～五月、岩崎式日本語適性テストのページと教本を制作。

◆ **【芸二】**四月二日、九日、「関根ひかり×岩崎純一 トーク・イベント」（全四回）が開催される。関根ひかり個展「話せることとの使命」期間内。「言語が生成する場」としてのインスタレー



ション作品などを制作している関根ひかりと、人工言語「岩崎式日本語」を制作している岩崎によるトーク・イベント。前述の映像芸術作品「Lesson」も展示（ループ再生）された。全集に、岩崎の発表部分の文字記録と配布テキスト（全四回共通テーマ及び第一回テーマから第四回テーマまで）を収録済み。

◆ **【芸二】**四月十四日、関根ひかり×岩崎純一 トーク・イベント（全四回）の御礼を掲載。

◆ **【総】**四月二十九日～五月一日、岩崎純一学術研究所のサイトをメインサイトに吸収。これをもってメインサイトが研究所サイトそのものとなる。

◆ **【芸二】**五月、『岩崎式日本語大全』を英語に翻訳（途中まで。関根ひかりの提案による）。

◆【芸二】五月七日、『人工言語カタログ2017』（人工言語友の会）

に寄稿。同日開催の第二十四回文学フリマ（東京東京流通センター）でも販売される。寄稿タイトルは、「もつとおしえて！人工言語」◆岩崎式日本語◆、「例文で感じる人工言語 * 岩崎式日本語」、「その他の言語紹介・岩崎式日本語」。

◆【芸二】六月四日～九日、四月二日・九日のトーク・イベントについて、岩崎の発表部分の文字記録、配付資料五部、写真を掲載。

◆【総】六月十日、サイトに Google ウェブサイト翻訳ツール設置。但し、サイト概要は手作業で翻訳することとし、翻訳開始。七月十六日、英語、中国語、韓国語トップページ及びサイトメニュー一覧を掲載。

◆【芸一】七月十日、日本大学芸術学部文芸学科の特別講座でゲスト講師として講義を行う。演題は「共感覚と芸術」。担当教員はソコロワ山下聖美教授、清水正教授。十時四十分～十二時十分、二時限目「原書講読Ⅰ」（所沢校舎文芸棟教室2）。十三時～十四時三十分、三時限目「文芸特殊研究Ⅱ」（所沢校舎文芸棟教室1）。



◆（ポスター作成者は日藝。ポスター内の紹介文・画像の著作者は岩崎。）

◆【総】トップページ、サイトメニュー一覧、その他のコンテンツページの英語、中国語、韓国語版を公開。（Google ウェブサイト自動翻訳ツールは六月十日に設置済み。）

◆【総】七～八月、「活動総覧」とそのサブページを拡充。

◆【人二】七月二十四日、『巫女神道探訪記』整理。七～八月、特設サイト「神道・仏教研究」作成。八月四日、両正式公開・設置。七月二十四日、「巫女神道比較表」・「巫女神道ブログ」整理。八月六日、正式公開。拡充。

◆【芸二】八月十一日、特設サイト「寿羅穂里阿文明」作成。八月十二日、設置。八月十三日、陰齋王の一覧を整理・正式作成。

- 八月十七日、掲載。拡充。
- ◆【芸二】七〇八月、特設サイト「岩崎式言語体系ペディア」を拡充。九月二日、岩崎式日本語研究会ブログを岩崎式日本語の議論ノートとして再開。九月四日、ペディアに巫女神道ブログと議論ノートの見出しを掲載。
 - ◆【総】九月九日、メインサイトのレイアウトの軽微な変更（色、マージン）。
 - ◆【女性】九月九日、コンフィデンシャル・レディース東京のサイト再開。メインサイトにも女性専用コンテンツマークを付与。
 - ◆【総】九月二十三日、サイトの「よくある質問と回答」を更新。
 - ◆【芸一】九月二十四日、「共感覚Q&A」を更新。
 - ◆【芸二】九月二十四日、「元素周期表についての共感覚」を更新。
【参考ツイート】
https://twitter.com/iwasaki_j/status/912299297605001217
 - ◆【人二】九月二十六日、「精神作用物質による精神・行動障害」を更新。
 - ◆【科一】九月二十六日、「日本共感覚研究会」の各ページに上記「精神作用物質による精神・行動障害」へのリンクを追加。
 - ◆【科二】九月二十七日、「超音波知覚者コミュニティ東京」の各ページに、超音波装置の設置スポット、人工超音波からの身の守り方、装置自体などの新情報を追加。
 - ◆【人二】九月二十九日、「寿羅穂里阿文明・神道の歴代陰斎王の一覧」を更新。
 - ◆【総】九月三十日、「好きな物事・趣味」を更新。
 - ◆【科二】十月七日、サイトの標準レイアウトをスマートフォン向けに変更。
 - ◆【科二】十月八日、「アクセス解析データ書庫」のサイト・ブログ全般の解析結果を更新。「岩崎純一総合アーカイブ」に現在のサイト（全ブログを含む）の文字数、コンテンツ数、ページ数などを追加。
 - ◆【科二】十月二十一日、メインサイトに独自SSLを導入。これにより、サイトアドレスが、<http://iwasakijunichi.net/>から<https://iwasakijunichi.net/>に変更。トップページ以外の全てのページも同様に変更。ただし、旧アドレスでアクセスした場合も、自動的に新アドレスに転送される。
 - ◆【芸一】十月二十二日、第十二回ひがしまつしま市民文化祭に楽曲提供。（水橋裕子様）
 - ◆【科二】十月二十八日、東京大学大学院人文社会系研究科心理学研究室（統合的認知研究グループ、横澤組、旧高次視覚研究グループ）が実施する共感覚についての実験・インタビューに参加。回答。実施作業者は院生、指導教員は横澤一彦教授、立教大学現代心理学部心理学科の浅野倫子助教。二〇一三年の同研究室での実験・インタビューへの参加に伴い、再度の参加の依頼を受けた。まず、ネット上の共感覚調査アンケートに回答。後日、改めて東大の研究室において実験・インタビューを受けた。
 - ◆【科二】十一月十五日、サイトおよび連携女性施設のイントラネ

ットに女性専用ウェブスペースを正式に設置（十月二十三日）準備。十月二十九日～十一月六日、コンフィデンシャルのサイトを女性スペースの一部として組み入れ。（限られた女性スタッフが編集・更新できる。）女性専用スペースの設置についての解説も設置。

◆【科一】十一月二十六日、東京大学大学院人文社会系研究科心理学研究室（統合的認知研究グループ、横澤組、旧高次視覚研究グループ）が実施する共感覚についての実験・インタビューに参加・回答。実施作業者は院生、指導教員は横澤一彦教授、立教大学現代心理学部心理学の浅野倫子助教。二〇一三年及び前回の同研究室での実験・インタビューへの参加に伴い、再度の参加の依頼を受けた。まず、ネット上の共感覚調査アンケート、及び、より詳細ないくつかの共感覚調査アンケートに回答。後日、改めて東大の研究室において実験・インタビューを受けた。

◆【芸二】十二月二日～七日、岩崎式日本語適性セルフチェックテストページ確認、拡充。

◆【科一】十二月十六日、東京大学大学院人文社会系研究科心理学研究室（統合的認知研究グループ、横澤組、旧高次視覚研究グループ）が実施する共感覚についての実験・インタビューに参加・回答。実施作業者は院生、指導教員は横澤一彦教授、立教大学現代心理学部心理学の浅野倫子助教。二〇一三年及び前回・前々回の同研究室での実験・インタビューへの参加に伴い、再度の参加の依頼を受けた。まず、ネット上の共感覚調査アンケートに回

答。後日、改めて東大の研究室において実験・インタビューを受けた。

◆【芸一】東京工芸大学芸術学部の学生からの依頼で、担当教員指導の下、まず岩崎が共感覚の実体験についてのインタビューを受け、次に日本共感覚研究会代表として、研究会会員・共感覚者への同インタビューを代行した。回答収集にあたっては、研究会サイト内に回答フォームを作成・設置した。内容は、主に「音に味覚を感じる共感覚」の実体験についてのインタビューで、そのほか、「文字に色を感じる共感覚」と「味に形を感じる共感覚」の実体験についてのインタビューも受けた。

◆【総】十二月十六日、メインサイト大幅更新に向けて準備（アーカイブ主体の全集風の構成に）。十二月二十三日、集中作業。

第三十六章 二〇一八（平成三十）年 三十五歳～三十六歳

◆【総】一月一日、「岩崎純一のウェブサイト」が、メインサイト（岩崎全般の紹介）の配下に各活動分野・各サークル別の特設サイトを配置する従来の「特設サイト方式」から、機関リポジットリと著作権法・図書分類法を元にした「著作物アーカイブ方式」へ移行。岩崎の著作物全般のアーカイブの名称を引き続き、「岩崎純一総合アーカイブ（著作物・私蔵貴重書目録及びリポジット）」とし、英語名を「IWASAKI JUNICHI COMPREHENSIVE ARCHIVE (IJCA)」とした。ただし、特設サイトも残した。資

料情報カードによるメタ情報管理が採用された。ブログは廃止し、全ての内容をアーカイブに統合した。一月二日、集中作業終了。一月十三日、各ページからのカードリンク作業終了。第六巻も見よ。

（一月十一日 追記始め）また、「著作物アーカイブ方式」への移行と同時に、手動でのレイアウト切替機能「サイト閲覧調整メニュー」（パソコン、スマートフォンなど、五段階切替え）などを含む「サイト閲覧調整メニュー」を廃止し、レスポンシブ・デザインを採用した。一月八日より、レイアウトは閲覧者の使用端末に合わせて自動切替となった。これについても一月一日より適用する予定であったが、遅れて一月八日からの適用となった。レスポンシブ・デザインへの躊躇から採用の検討に至るまでの経緯は、「サイトをパソコン優先からスマホ優先へ」に記述した。

一月二十日、メインロゴを変更。

一月三十一日、『岩崎純一全集』の編纂を編纂局として本格的に開始。二月八日、本文以外の追加部分を編纂局が執筆開始。二月十一日、編纂方法について会合し、整理・確認。第六巻にまとめ。

◆【科一】一月六日、東京大学大学院人文社会系研究科心理学研究室（統合的認知研究グループ、横澤組、旧高次視覚研究グループ）が実施する共感覚についての実験・インタビューに参加・回答。実施作業者は院生、指導教員は横澤一彦教授、立教大学現代心理学部心理学科の浅野倫子助教。二〇一七年十二月十六日の共感覚

についての実験・インタビューの続き。東大の研究室において実験・インタビューを受けた。

◆【総】一〜二月、『岩崎純一全集』編纂方法を整備。分類方法を再検討。図書分類を基本とし、NDC採用を継続。これまでの「11言語の著作物」を中心に整理。NDCの「類」までの分類だったが、「綱」まで分類を細分化。百分類への振分作業開始。全集の巻数に充当。「総記」十巻は、NDCと異なり、独自構成に。総記以外は、二〇一七年末の全集風アーカイブ作業で整理した各資料本体ファイル（文章、ブログ記事、画像、ウェブページなど全著作物と、物品の文章による解説部分）と資料情報カード（紙）を統合（主にWordファイルとして。画像含む）。三月、NDCを事実上取りやめ、独自に考案した分類法のIJDCを採用。振分作業開始。著作物目録とサイトのアーカイブページを照合。一巻一ファイル（本編）とし、本編に統合できない資料は別添資料とした。総記全般の執筆・編纂開始（この年譜、IJDCの解説、利用者向け案内などを含む）。四月十四日、アーカイブ・『全集』方式（ウェブ、紙媒体の双方を想定）の新サイトを仮作成、実験。五月十二日、仮サイト公開。従来サイトをほぼ削除。六月、仮サイト整備、アーカイブ・『全集』提供準備。従来の利用者等のデータ整理。

◆【社】六月三日、筑波大学情報学群知識情報・図書館学類の学生（担当教員：図書館情報メディア系）による共感覚に関するインタビューに回答。

◆【総】七月一日、アーカイブ・『全集』サイト仮オープン（二〇一九年一月一日正式オープン）の旨記載。「岩崎純一のウェブサイト」の大部分が「岩崎純一学術研究所」の名称となった。一月一日からの半年間のアーカイブに、民法の「物」や「有体物」の規定を参照にして、岩崎の著作物以外の物（岩崎の製作物や岩崎以外の製作者・著作者による製作物・著作物）を加え、アーカイブを拡充。アーカイブ化には、独自の岩崎式十進分類法（JDC）を考案して使用。第六巻も見よ。

七月三日～八月二日、第十一巻以降の初公開前の最終編纂。

七月十九日、サイトのアーカイブをローカルと同じくエクスペローラー風ツリー階層表示に変更（jQuery、treeview）、htmlは1ページに。CSSも簡素化。

七月二十六日、『全集』提供の際のファイル形式を検討。PDF、HTML（HTM）、MHTML（MHT）、EPUB ファイルを作成し、ローカル及びサイト上でテスト閲覧（パソコン、スマホ双方で）。EPUB は LeME で作成、それ以外は Word で可。PDF が最良。同日～八月二日、『全集』の Word、Excel 等の PDF 化。八月二日、『全集』の全 PDF をアップロード、トップのツリーからリンク。

八月四日、ツリーの各資料前にオープンまたはクローズドアクセスマーク設置。

八月六～七日、ブログ（閉鎖済文言あり）と SNS（Twitter、Facebook、mixi、Google+）のタイトル・プロフィール・写真

を個人から JAI メインに変更。

八月七日、【二系一群】以外の資料の特記事項を第一集に追加、資料リスト作成、ツリーにも追加。

八月十一～十三日、JAI 十室、女性局、（女性）名簿、女性編纂別添資料、女性サイトスペースの運営・整理・編纂のあり方を検討整理。JICA 模式図に女性アーカイブ説明追加、資料をツリーに追加。名簿は六月二十四日から整理開始、公開部分は第四巻に追加。

八月十四日、トップのツリーを階層別にページ分割。女性資料の無料・オープンアクセス提供分のアップ開始。それ以外はリストタイトルのみツリーに追加。

八月十六日、トップデザイン変更。

◆【科一】八月十九日、東京大学大学院人文社会科学系研究科心理学研究室（統一的認知研究グループ、横澤組、旧高次視覚研究グループ）が実施する共感覚についての実験・インタビューに参加・回答。実施作業者は院生・学部生、指導教員は横澤一彦教授、立教大学現代心理学部心理学科の浅野倫子助教。二〇一三年から前回までの同研究室での実験・インタビューへの参加に伴い、再度の参加の依頼を受けた。東大の研究室において実験・インタビューを受けた。

◆【総・女性】九月一日、女性局サイト案整理。九月二日、正式公開。九月八日、女性局サイトを JAI 本サイトから分離、別途 SSL 化。九月二十二日、女性資料も JDC（他の JICA 資料と同様の

編纂方法）を採用。（女性資料の組織的整理も、JICA・JICW・JIDC設置の目的の一つである。）

◆【総】九月十一日、サイト・SNSに「よく頂く質問」への回答を掲載。

◆【総】九月十五日、サイト全体を分かりやすく改善。【〇系】に研究所概要の表を掲載。【二系一群】中心の旨及び巻数をサイトに明記。

◆【女性】九月二十日、女性資料置場用ブログ仮作成、実験的に記事アップ。九月二十二日、ブログ取りやめ、他のJICA資料と同様にWord等へ集約、PDF掲載のため、編纂開始。九月三十日、JIDCを全面的に採用。同日、十月四日、女性局（女子寮）の案により、別サイトとして設ける女性資料アーカイブの名称を『女性現実物語』に決定、サイト・資料全体に反映。十月六日、十四日、『女現』資料のアーカイブ化案が出、採用。更に『女現』は女性局サイト・アーカイブとは別に設置。JICAと同じく通し番号で百巻構成だが、『女現』の「巻」は「幕」とも通称。十月十八日、『女現』序幕、第五幕を整理、JAI・JICAとの対応表作成。十月三十一日公開。

◆【科一】九月二十九日、東京大学大学院人文社会系研究科心理学研究室（統合的認知研究グループ、横澤組、旧高次視覚研究グループ）が実施する共感覚についての実験・インタビューに参加。回答。実施作業者は院生・学部生、指導教員は横澤一彦教授、立教大学現代心理学部心理学科の浅野倫子助教。二〇一八年八月十

九日の共感覚についての実験・インタビューの続き。東大の研究室において実験・インタビューを受けた。

◆【総】十一月三日、十二月十六日、JAIと女性局・女現研の完全対応のため、JIDC拡充（第十次区分に拡大。主系・副系設置）、序巻に解説執筆、第二巻の表も更新。

◆【芸三】十一月十三日、三十日まで行われた展覧会「ドストエフスキー曼陀羅」において配布された『ドストエフスキー曼陀羅特別号』に、「清水正先生の大勤労に大感謝する祭に寄せて」を寄稿。本展覧会は、日本大学芸術学部の大感謝する祭に寄せて」をびドストエフスキー論執筆五十周年を記念する展覧会。会場は日本大学芸術学部江古田校舎 西棟三階 芸術資料館。

会期中の二十三日に行われた「清水正・ドストエフスキー論執筆五十周年 清水正先生 大勤労感謝祭」のオープニングセレモニーおよび懇親会での先生方のご挨拶において、清水先生の恩師 此常啓助先生により、岩崎の寄稿文が引用・紹介される。





◆【芸一】十二月十四日、日本大学藝術学部文芸学科の特別講座でゲスト講師として講義を行う。演題は「共感覚と文学」。担当教員はソコロワ山下聖美教授。十三時〜十四時三十分、三時限目「文芸特殊研究Ⅱ」（所沢校舎文芸棟教室Ⅰ）。

◆【芸二】十二月十七〜二十九日、最古のブログ、旧スラフォーリアブログ、岩崎式言語体系ペディアをJICWに吸収、掲載。

◆【総】十二月二十二日〜三十一日、アーカイブサイト正式オープンの最終準備。初訪問者向け情報、最新情報を掲載開始。二十九日、学生向け情報（大学別資料収録先リスト）を作成（以後随時更新）。三十日、JICA構築モデル・概念図作成。三十一日、Twitter、Facebook、mixiに正式オープンのお知らせ投稿。

◆【芸一】十二月二十五日、『日野日出志研究 No.4』刊行。岩崎は、「日野日出志と蔵六が「蔵」する第「六」感・「色即是空」漫画の試み」を寄稿。（十二月二十一日、江古田の同心房で行記念の金曜会。但し、日野氏は大阪芸術大学出校のため欠席。）



第三十七章 二〇一九（平成三十一、令和元年） 三十六歳〜三十七歳

◆【総】二〇一九年元日、「岩崎純一学術研究所（JIAI）」のウェブサイトを正式オープンし、「岩崎式十進分類法（JIDC）」に基づく「岩崎純一総合アーカイブ（JICA）」および『岩崎純一全集（JICW）』の一部を学術機関リポジトリとして公開。（但し、これまでにも公開済み資料多数あり。）

民法・著作権法等の法律やクリエイティブ・コモンズ・ライセンス等の各ライセンス、十進分類法、『全集』の目次、研究所の組織編制が相互に連動する、理路整然としたアーカイブ体制となつた。

◆【総】一月三日、「JICA・JICW・JIAI・JIDC」の構築モデル・概念図、「大学（高等学校・中学校）別 JICA資料収録先リスト」をアーカイブに追加。（元日の掲載予定のところ、遅れたも

の。

◆【女性】一月四日、女性局の『女性現実物語』担当組織名が「女性現実研究所」となる。

◆【総】一月二十四日、『全集』序巻〜第七巻「序説、総記（序〜七）」抄 別添資料「二〇一九年および近年中に施行・実施される諸法令・諸制度（改正著作権法、専門職大学、改元、消費税率の引き上げなど）」に関する「岩崎純一総合アーカイブ（IJCA）」および『岩崎純一全集（IJCW）』の編纂・管理上の対応および方針」をアーカイブに追加。（現在、序巻の別添資料扱い。）

◆【科1】二月九日、岩崎の Google+ アカウントを閉鎖。一般ユーザー向け Google+ の提供が二〇一九年四月二日に終了することに伴うもの。

◆【総・女性】二月十四日、サイトの女性局ディレクトリ内女性アーカイブ表示を本体ディレクトリ表示に統合。（リンク先資料は元より本体ディレクトリにあり。）二月十六日〜三月二十三日、現在の IJAI スタッフ・旧サークルの主なメンバー表を変遷表に追加。IJCA の分類（IJDC）について、知財・無体物の観点から序巻に追加。サイトレイアウト変更。IJCA 資料保管場所マップ・移動計画を追加。【二・四・六・八系】資料・貴重資料（書籍等。他、例えば二系は絵日記等）を調べ（全体棚卸し）、リスト（目録）入力。表紙撮影、リストの表紙に。岩崎純一学術図書館（〜学術文庫（IJAI）を正式に設置、序巻に追記。明記「講演音声の分類先は音声でなく言語へ」。表紙・著作物画像は IJDC

に沿ったディレクトリに配置。『全集』第一集各本編の表紙画像作成（巻ごとに分けず、一種。女性アーカイブは色違いに）。三月二十一日、目録掲載、第六巻追記。

◆【総】三月三日、「IJCA 資料の保管場所マップおよび移動計画」をアーカイブに追加。

◆【総】三月二十一日、図書目録をアーカイブに追加。（岩崎純一単著・共著・寄稿目録」、「岩崎純一私蔵利用図書目録」、「岩崎純一私蔵貴重図書目録」、「岩崎純一私蔵寄贈図書目録」）

◆【総】三月二十五日、外部 BBS への投稿文も『全集』に編入開始（当然、『全集』に収録できる岩崎の著作物であるため）。

◆【芸1】三月三十日〜三十一日、岩崎式日本語特設サイト（関根ひかり、岩崎純一の合作）の内容とデザインを『全集』内に転載し（八十六巻の別添として）、サイトを閉鎖、SNS からのリンク削除。期限の八月二十七日を以て消滅。↓二〇二一年一月二十四日、関根ひかりサイト内の岩崎式日本語ページが閉鎖、別内容へ。

◆【人・社一・芸二・芸三・総】四月一日、新元号「令和」発表に伴い、出典『万葉集』の該当箇所の写真（私蔵本）を SNS へアップ。うたのわにて、予定していた令和万葉歌会を開始。

四月一日（三月二十八日〜整理）〜七月十三日、巫女協力資料（戦史、言語、和歌・歌道関連）及び【六系一群】寄贈図書目録（特に冒頭注意書き）も拡充。関連の他巻・他目録【四系一群】等）にも内容・図書追加。

五月三十一日、令和万葉歌会終了。六月三日、コメント。

◆【総】四月八日～十三日、一巻とサイト・SNSのプロフィール、シンボルマークの記述を更新（大学非常勤講師の旨、担当分野記載）。

◆【芸一】四月十六日、日本大学芸術学部文芸学科「文芸特殊研究Ⅰ」（四限）で講義。主題「人間と文芸（Ⅰ）・「共感覚」から考える」（配付資料を掲載。）五限の「ジャーナリズム論」にもゲスト参加。その後、同心房で行われた日藝文士會（通称：火曜会）に参加。同会は、昨年度までは金曜日に「金曜会」として行われていた。今年度からは火曜日に行われている。

◆【総、芸二】四月二十一日、バーチャル（仮想）御殿、通称「武蔵幻想邸」をJIAIのオンライン本部・共同編集所として利用開始。～四月二十五日、2系6群に全図および大広間の新たなSDCGを追加。これに伴い、『全集』第一集序巻・八十九巻への引用・収録部分も修正：旧版画像（仮想居住者表示含む）を削除し、新版に差し替え。サイトトップ、一巻にも掲載。Sketchfabにもアップ。～五月十六日、邸解説を修正。

◆【芸三】五月十四日、日本大学芸術学部「読書と豊かな人間性」（二限）で講義。その後、同心房で行われた日藝文士會に参加。

◆【人一・社二】七月六日、巫女協力資料を分割、神道系統図の分割編集開始。七月十日、巫女神道家系図の分割編集開始。七月十三日、巫女協力資料が五資料の形式となる。～八月十五日、編集、総仕上げ。八月十四・十五日、公開、SNSに案内投稿。八月十五～二十九日、十月六日～十一月十日、追記。十一月九日～、巫

女神道吉備派のロゴ作成、サイト計画準備。十二月五日、戦史資料を三十四巻本編から分離、別添に。

◆【総】八月九日、さくらブログ全消去。文章・画像共に全集に収録済。サーバーからは消去。…メインブログ（人文科学Ⅰ）、第二ブログ（人文科学Ⅱサブ）、第三ブログ（自然科学）、更新情報ブログ、余情会ブログ、岩崎式日本語ブログ、バーチャル巫女神道ブログ）。

◆【女性】八月十六日、女性現実研究所のサイト及び同所・岩崎間のネットワーク構築準備開始。八月十九日～、女現研資料整理・編纂再開（二月の続き。七月～構想メモ作成、反映）。二月に相当準備できており、これを基礎として構築へ。九月八日～、女現研公開に向け、女性局本局ページも同時調整。九月十二～十五日、女現研資料本編公開に向け改訂（〇系、二系一群、五～九系）。九月十六日～十月十四日、女現研サイト更新、資料を徐々に公開。女性リスト三種及びメール（閲覧要申込）は、JIAI本部資料と共有の扱いに。JIAIから女現研サイト・資料にリンク（但し、岩崎式言語体系や共感覚関連などを除き岩崎の名はほぼ載せないなど、女現研の独立性を維持）。部局の対応表は女現研から女性局へ移動。共感覚セラピー・伝授詐欺、児ポ法関連説明を拡充し、イエロー・レッド・ブラックリストを照合追記し、ICCW 六十九巻の各報告書に対応させる。女性スタッフの政治的立場を記述。一部ページは `https://www.rocky.com/` で制御。

◆【総・芸一】九月二十九日、消費税率の引上げに向け、音楽の見

積書・納品書・請求書等を10%用に変更。七十六巻の税率表示も変更。十月八日、序巻別添にも税率引上げの追記修正。

◆【芸二】十月一日、日本大学芸術学部文芸学科「文芸特殊研究Ⅰ」（四限）で講義。主題「人間と文芸（2）・「言語障害」から考える」。使用資料は既存のIJCA・JICW。IJCA・JICWのみを使用した初の講義となった（岩崎のパソコン、スマホを持ち込み、テザリングでネット接続し、映写）。五限の「ジャーナリズム論」にもゲスト参加（模擬雑誌「家族」副編集長として）。

◆【総】十月六日〜十三日、総合案内、グループ・サークル表、教育機関連リスト、資料移動計画、寄付・クラウドファンディング関連注意事項を更新。

◆【科一】十月十九日、東京大学大学院人文社会系研究科心理学研究室（統合的認知研究グループ、横澤組、旧高次視覚研究グループ）が実施する共感覚についての実験に参加・回答。実施作業者は院生・学部生、指導教員は横澤一彦教授。これまでの同研究室での実験・インタビューへの参加に伴い、再度の参加の依頼を受けた。まず、ネット上の共感覚調査アンケートに回答。後日、改めて東大の研究室において実験を受けた。

◆【科一】十月二十一日、十五時〜十七時十五分、本郷キャンパス工学部二号館三階の電気系会議室三にて、「自然言語の性質と自閉症者・共感覚者の知覚・認知」の演題で講演。使用資料は既存のIJCA・JICW（岩崎のパソコン、スマホでテザリング）。十六時三十分〜十七時十五分は質疑応答。主催は東京大学大学院工学

系研究科電気系工学専攻 峯松研究室（峯松信明教授）。十七時三十分〜十八時五十分、峯松研究室にて意見交換会。十九時〜二十時五十分、松本楼にて夕食会。

◆【科一】十一月十六日、東京大学大学院人文社会系研究科心理学研究室（統合的認知研究グループ、横澤組、旧高次視覚研究グループ）が実施する共感覚についての実験に参加・回答。実施作業者は院生、指導教員は横澤一彦教授。二〇一九年十月十九日の共感覚についての実験の続き。東大の研究室において実験・インタビューを受けた。

◆【芸二】十一月十九日、日本大学芸術学部文芸学科「文芸特殊研究Ⅰ」（四限）で講義（他の先生の代役）。主題「人間と文芸（3）・「人工言語」から考える」。使用資料は当日用作成資料と既存のIJCA・JICW。IJCA・JICW。（岩崎のパソコン、スマホでテザリング）。

◆【芸二】十一月二十六日、日本大学芸術学部文芸学科「文芸特殊研究Ⅰ」（四限）で講義。主題「人間と文芸（3）・「人工言語」から考える」。使用資料は当日用作成資料と既存のIJCA・JICW。IJCA・JICW。（岩崎のパソコン、スマホでテザリング）。

◆【総】十二月一日、サイトに「学生の皆様へ」追記（課題提出先）。十二月八〜九日、「岩崎純一学術研究所（JIAI）東京本部アーカイブ・システム室 間取り図」を作成、アーカイブに追加。十二月八日、JIAI・IJCAなどのロゴ作り直し（唯識・ピラミッド画像に文字入れ、新作）。サイトトップロゴはIJCAでなくJIAI

のまま（研究所内コンテンツとしてアーカイブ設置）。十二月二十一日、【〇系】ページに各部局の長の名、IJAI 館長としての岩崎の記載を追加。十二月二十三～二十七日、IJAI 所員・業務についての資料を作成、アップ。～四月四日、修正。

◆【芸三】十二月十日、日本大学芸術学部文芸学科「文芸特殊研究Ⅰ」（四限）で講義（他の先生の代役）。主題「人間と文芸（４）」「和歌・歌合」から考える」。使用資料は当日用作成資料と既存のIJCA・IJCW。IJCA・IJCW。（岩崎のパソコン、スマホでテザリング）。

◆【総】十二月十二日、「岩崎純一学術研究所（IJAI）アーカイブ・システム室の各HDDの交換作業マニュアル（二〇一九年神奈川県HDD 転売・情報流出事件を機に一般公開） 副題：地球環境問題、利権問題をHDDの処分から考える」をアーカイブに追加。

◆【人二】十二月十五日、先古代史の会の例会（二〇一九年十二月例会、十四時開始）にて、平山牧人氏（東京吉備文献研究会代表、先古代史の会副会長）が岩崎の巫女神道の研究を取り上げる（十五時頃より）。発表タイトルは「隠された吉備の巫女神道・古神道を研究する岩崎純一氏に注目、紹介する」。岩崎は多忙により参加できず。

◆【芸三】十二月二十四日、日本大学芸術学部文芸学科「文芸特殊研究Ⅰ」（四限）で講義。主題「人間と文芸（４）」「和歌・歌合」から考える」。使用資料は当日用作成資料と既存のIJCA・IJCW。IJCA・IJCW。（岩崎のパソコン、スマホでテザリング）。その後、

同心房で行われた日藝文士會に参加。

◆【総】十二月二十六～二十七日、「岩崎純一学術研究所（IJAI）の所員の特質およびその業務・作業の内容」をアーカイブに追加。IJAI サイトトップをやや簡素化。

◆【総・人二】十二月三十日、「巫女神道吉備派（IJAI 吉備支部）」のサイトを作成開始。トップページ：/kibi/ディレクトリ再設置（一旦 /okayama-miko/ にすべ/kibi/に戻し）。

第三十八章 二〇二〇（令和二年） 三十七歳～三十八歳

◆【科一】三月十二日、東京大学大学院人文社会系研究科心理学研究室（統合的認知研究グループ、横澤組、旧高次視覚研究グループ）が実施する共感覚についての実験に参加・回答。実施作業者は院生、指導教員は横澤一彦教授。これまでの同研究室での実験・インタビューへの参加に伴い、再度の参加の依頼を受けた。東大の研究室において実験・インタビューを受けた。

◆【総】三月十九日、「IJAI 武蔵野支部」、「IJAI 吉備支部」のページを特設し、公開。特設ページ「女性局」（女現研）のディレクトリ構造を整理。三月三十日、女現研のドメインアクセス安定性確認。四月一日、支部・女性局サイトHTML修正。

◆【総・人二】三月二十一～二十三日、特設ページ「巫女神道吉備派」および巫女神道資料の公開準備。三月二十三日、公開。～四月十二日、資料を追加拡充し、同ページに掲載。内容は、IJCA・

JJCW の収録内容の抜粋である。三月三十日～四月六日、吉備支部、吉備派トップに安倍政権の問題（モリカケ問題、桜を見る会、新型コロナウイルス用マスクなど）と夫人・山口・九州・岡山をめぐる問題、および署名活動について掲載（四月二十一日、修正）。四月一日、吉備派サイト HTML 修正。四月十九日、岩崎による吉備派の継承について、吉備支部から吉備派ページに移動。

◆【総・芸一】三月二十八日、岩崎の芸術作品（バレエ音楽など）の上演パンフレットを整理、上演者リストを作成（協力者利用者名簿と概ね整合）。

◆【総】四月五～七日、女性局・女現研のページを拡充。二〇一九年九月末にほぼ完成状態、そのまま踏襲。内容は、IJCA・JJCW の収録内容の抜粋である。女性スタッフからの意向・依頼により、岩崎の氏名および協力・担当状況を一部の資料に記載へ（女現研最高代表、女子寮（シェアハウス）特別顧問として記載）。四月十二日、女現研シェアハウス情報をサイトトップへ掲載。四月二十一日、women.jp.n.org/login/ ページ作成（women2 ディレクトリ配下。系々ことにはベーシック認証ページを設置せず、まとめてログインページ設置、`htpasswd・htaccess` で制御。希望者にページ伝達）。

◆【総】四月十四日、【0系】ページに「JIAI 東京本部」（第〇局が JIAI の東京の本部である旨）を明記。JIAI ログと別に JIAI 本部ロゴ作成、本部ページへのリンクに使用。

◆【芸一】四月十六～十八日、旧「JART MUSIC」（現在も「岩

崎純一芸術団」(IJAG)の音楽部門として活動)の音楽を YouTube にアップロード、曲解説入力。内容は、IJCA・JJCW の収録内容の抜粋である。XGworks (使用ソフト)「The Blue Road (旧レーベル名)時代の曲も掲載。(今もネット上に、一部の古い曲の情報が自動アーカイブ・キャッシュページとして残存。時々自分で検索、発見。↓以後、次第に消えている。)

◆【芸一～三】四月十九～二十日、「岩崎純一芸術団」(IJAG)のページを特設し、公開。IJAG ログ作成、arts/リンク。内容は、IJCA・JJCW の収録内容の抜粋である。従来の音楽活動レール「JART MUSIC」は、名称を残しつつ IJAG の一部として吸収。これまでの音楽データ (mp3) および販売ページに加え、YouTube の IJAM チャンネルにもリンク、「全曲無料試聴可能なため、ご購入は寄付程度にお考え下さい」の旨追記。ヌード芸術の扱いについて記載。三月二十八日から作成の上演者リストを掲載。四月二十一日、上演者 (バレエ、巫女) のうち、パンフレットなどで写真が既に公開済である上演者の写真を掲載。

◆【総】四月二十六日、JIAI 紹介動画を YouTube にアップロード。

◆【総・芸一】四月三十日、「Hiroko の部屋」サイト公開。個人水彩画家・色鉛筆画家 Hiroko の絵を掲載。

◆【人一】五月五日、Google マップで「巫女神道吉備派の大局的歴史観マップ」を作成。七日、公開 (ページ埋込、共有設定)、十四巻別五・巫女資料 (八) として掲載。十八日、他巫女資料も追記更新。

- 究Ⅰ」（四限）で講義。主題「言語を作る・壊す」。使用資料は特設ページに掲載。
- ◆【芸一】八月二十日、日本大学芸術学部文芸学科 特別講座「共感覚と芸術」の音声記録二本と、日本大学芸術学部文芸学科 特別講座「共感覚と文学」の音声記録を掲載。
- ◆【科一】八月二十日、講演「自然言語の性質と自閉症者・共感覚者の知覚・認知」の概要（東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻 峯松研究室 主催）の音声記録を掲載。
- ◆【芸一】八月三十日、マシニマ「芭蕉」（セカンドライフ）とバレエ音楽・交響詩・音楽劇『夕麗（SEKIREI）』をYouTubeに掲載。
- ◆【総】九月六日、メイン・女性局サイトからTwitter埋込削除。
- ◆【総】九月二十二日、「個人レベルでできる「コンパクト」で「持続可能な」テレワークやオンライン授業の機材構成やパソコン改造・自作の試みの一例（新型コロナ下の巣ごもり生活のための情報提供版）」と「懐かしのDTMソフト紹介（新型コロナ下の巣ごもり生活のための情報提供版）」を追加。
- ◆【総】十月三日、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うオンライン講義などの対応についてを掲載。
- ◆【女】十月十一日、シェアハウス型女子寮の公開用間取り図の作成を開始。
- ◆【芸一】十月十八・十九・二十四・二十六・二十七・二十九・三十一日、十一月一・二日、十二月二十四・二十六・三十一日、二〇二一年一月九・十一・二十一日、日本大学芸術学部からの依頼で、ロシア、サンクトペテルブルクの博物館、クンストカメラに所蔵されているロシア皇帝ニコライ二世（資料当時皇太子）への献品のうち、アイヌ民族の刀剣文化（タンネップ（飾太刀）・エモシ（太刀））や戦史に関する資料、諸岡マツの書状、宮内省『外賓接待録 四』、絵巻物（茶道に関するもの）の解説（楷書起こし）、注釈、現代語訳を担当し、提供。
- ◆【人一】十月二十五日、先古代史の会二〇二〇年十月度例会にて発表。同会副会長の平山牧人氏にお招きいただいたもの。テーマは「日本の神道について」、演題「日本の神道は岡山の巫女神道からはじまった!」。会場は芝浦三・四丁目町会事務所二階。十四時〜十六時、発表（途中休憩…約十分）。十六時〜十六時二十分、聴講者感想。その後、十七時より数軒隣のサイゼリヤにて懇親会が開かれたが、不参加。チラシ、当日配付資料、音声資料掲載済み。
- ◆【芸三】十月二十七日、日本大学芸術学部文芸学科「文芸特殊研究Ⅰ」（四限）で講義。主題「新型コロナ問題」。使用資料は特設ページに掲載。
- ◆【芸三】十一月十七日、日本大学芸術学部文芸学科「文芸特殊研究Ⅰ」（四限）で講義。主題「時事問題から見る言葉と心理」。使用資料は特設ページに掲載。
- ◆【芸三】十二月一日、日本大学芸術学部文芸学科「文芸特殊研究Ⅰ」（四限）で講義。主題「日芸創設者・松原寛と総合芸術（Ⅰ）」。

使用資料は特設ページに掲載。

- ◆【芸一】十二月十二日、岩崎の総合芸術上演の手引き（十一月二十日〜作成）を掲載（旧「上演者一覧」から拡充、差し替える形）。

- ◆【女性】十月〜、女子寮施設フロアマップ・間取り図を初公開用に編集開始。十二月十二日〜、女現研サイト見直し、拡充。

Itaccess 緩和。四月以来、再公開ページを増やした。SUI 転送正規化（一部 <https://www.~>では不可）。十二月二十日〜、女子寮サイト拡充。

- ◆【芸一】十二月二十日、Hiroko の部屋拡充、IAI からリンク。

◆【芸二】十二月十五日、日本大学芸術学部文芸学科「文芸特殊研究Ⅰ」（四限）で講義。主題「日芸創設者・松原寛と総合芸術（2）」。

使用資料は特設ページに掲載。

第三十九章 二〇二二（令和三）年 三十八歳〜三十九歳

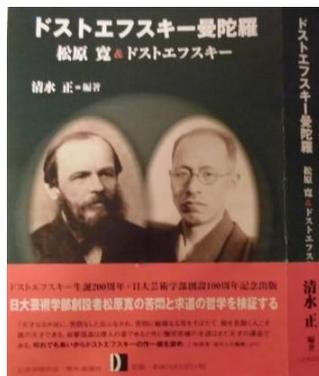
- ◆【女性】一月二日、女現研とのオンラインネットワークの強化を開始。これまでもシステム担当である岩崎（男性）がなるべく共用部以外に入室しないため、オンライン業務を強化していたが、新型コロナウイルス対策も踏まえ、より強化へ。女子寮施設フロアマップ・間取り図の編集継続、初公開に向けて準備開始。十六日、最終調整。

- ◆【芸一】一月のニコライ二世関連の解説は、二〇二〇年に記載。

- ◆【女性】二〜五月、女現研究相談メール集中期。特に二月二十三

日、四月二十三〜五月一日。中には違法ビジネス業者もあり、ドメイン偽装などへの監視体制を強化。

- ◆【人二】二月二十八日、『ドストエフスキー曼陀羅 ドストエフスキー&松原寛』（D文学研究会）刊行。岩崎は、「ニーチェと松原寛 ―東西の哲人の共通点と相違点―」を寄稿。



- ◆【社二】三月十日、『ラスキン文庫たより』第八一号に「環境問題・感染症問題から見るテレワーク時代の皮膚」を寄稿。

- ◆【総】三月十三日〜十五日、サイトレイアウト更新。

- ◆【総・人・社・芸】今年度、日芸文芸学科にて「伝記論（通年・I・II）」及び「文芸批評論（通年・I・II）」の授業を担当。両授業とも他学科公開科目。各全三十回をオンライン授業にて実施。

- ◆【人二】五月三日、三十一日、巫女神道吉備派サイト大幅改訂。

- ◆【社二】五月八・十日、ヒトラーと日芸創設者・松原寛との交誼について、日芸に情報提供。サガモア・ヒルに保管されている日

←「清水正・批評の軌跡」web版（特別講義を視聴可能。）

<https://sites.google.com/view/shimizumasashi-hihyounohiseki/>

◆【女性】九月二十二日、女現研究会にて通達：周トラウマ期解離、インセルによる犯罪への対策など。

◆【芸三】十月六日、日本大学芸術学部文芸学科「文芸特講Ⅱ・文芸特殊講義Ⅱ」にて、天皇制（とりわけ男系・男子・女系・女子天皇の違い、天皇の靈性、吉備史、過去に王朝交代があった可能性、宮中三殿、三島由紀夫の思想など）について講義。

◆【芸一】十月十八日、日本大学芸術学部創設百年を記念し、日藝創設者・松原寛の『藝術の門』が復刊された。岩崎は『藝術の門』復刊に寄せて」を寄稿（当初「序文」執筆依頼として受諾。実際は末尾に掲載。十月二十七日の入手時に確認）。同記念により開催された展示会「松原寛と日藝百年」（十月十九日～十一月十二日、日藝 西棟三階 芸術資料館）にて配布された。また、岩崎が過去に寄稿した『日藝ライブラリー No.3』（前述）も配布された。

←「松原寛と日藝百年」展 特設サイト（学部長および文芸学科主任の挨拶文、動画などが掲載されている。）

<https://sites.google.com/view/matsubarakan/>



◆【人二】十月二十二日より、論考「絶対的一者、総合芸術、総合感覚をめぐる東西・男女の哲人の苦闘 ―ニーチェ、松原寛、巫女の対比を中心に―」が、「D文学通信」（D文学研究会、編集・発行人 清水正）に連載された。（ネット版「D文学通信」第二号・通算一四三二号・連載第一回 ～ 第四十一号・通算二四七号・連載第三十六回。但し、別の内容回である第四、七、八、

二十五号を除く。）

本論考は、『ドストエフスキー曼陀羅 ドストエフスキー&松原寛』（D文学研究会）に寄稿した「ニーチェと松原寛 ―東西の哲人の共通点と相違点―」（約五〇枚版）の元の長編版（約六五〇枚）である。

◆【芸三】十月二十七日、前述の「松原寛と日藝百年」展観覧、『藝術の門』および「熱情」（松原寛研究会同人誌）を入手。（岩崎の授業は今年度全てオンラインのため、四月以来の大学訪問。）その後、四限の「文芸研究Ⅰ」にて、共感覚・自閉症（とりわけ岩崎の実験参加、キム・ピーク氏、性染色体、イマジナリー・フレンド、解離性障害、内的自己救済者（ISH）など）について講義。学生と前述の「天皇の霊性」について議論。五限の「文芸研究Ⅱ」にて、日本の労働問題について講義。

◆【芸二】十二月二十二日、次の授業に参加、講義。三限「文芸特講Ⅰ」：清水正先生特別講義。末尾、岩崎原稿の連載の話。四限「文芸研究Ⅰ」：ゼミ雑誌。日大の現状、学生へのマスコミ取材、「もののははれ」について。五限「文芸研究Ⅱ」：夢、フロイト、ユング、共感覚、「もののははれ」について。

◆【女性】十二月二十七日、女性局組織図の初公表決定。修正作業開始。十二月二十九日、IJCAに掲載。女性専用エリアにも既存CMSを導入。十二月三十一日、女性局関連サイトを相互リンク。組織図を含むIJCAの女性局資料に女性局サイトからリンク。

第四十章 二〇二二（令和四）年 三十九歳〜四十歳

◆【芸一】二月十日、SoundCloudで楽曲公開。（二〇二〇年〜計画。）

◆【芸一】二月十八日、AudioStockで楽曲のライセンス販売を開始。（二〇二〇年からの音楽サブスク販売計画の一環で追加。）

◆【芸一】二月二十五日、IJART MUSIC (IJAM) のサイトを公開。（音楽サブスク販売目前を機に。）

◆【芸一】三月四日、音楽サブスクの各ストアで、IJAMの楽曲が販売開始。（二〇二〇年〜計画。）

◆【総・人・社・芸】今年度も、日芸文芸学科にて「伝記論（通年・I・II）」及び「文芸批評論（通年・I・II）」の授業を担当。両授業とも他学科公開科目。各全三十回をオンライン授業にて実施。

◆【芸一】四月十四日、音楽サブスクの各ストア・YouTube（代行：AudioStock）で、IJAMの楽曲が収録されたコンプレーションアルバムが販売開始。以後、随時数枚に収録・販売中。

◆【芸一】五月六日、音楽サブスクの各ストア・YouTube（代行：AudioStock）で、オリジナルアルバム『吉備 雪月花幻想交響岡山の舞台音楽コレクション』『交響詩 刻燈 長編』が販売開始。

◆【人一】四月十五日、「絶対的一者、総合芸術、総合感覚をめぐる東西・男女の哲人の苦闘 ―ニーチェ、松原寛、巫女の対比を中心―」の原文全編をIJCAサイトにも掲載。

◆【総】四月二十四日、IJAI英語版サイトを公開。

備え、「岩崎純一および岩崎純一学術研究所の活動内容・ご用命
内容の概要」にインボイス事項追記、「同く、および適格請求書
（インボイス）発行チャート図」として掲載。

第六編 岩崎純一の言語の著作物の頻出用語

（特設サイト方式・非アーカイブ方式が終了した二〇一七年十二月三十一日までの全著作物について）

第一部 人文科学、社会科学及び芸術、文化、言語、文学用語

9.11 BBS CG dsm F1 ICD iPS 細胞 PTSD SNS STAP 細胞 Twitter
Windows いじめ うやこちゃん がん じゃんけん ひきこもり ベム
の自己知覚理論 ものけ姫 もみじ わび アイヌ アインシュタイン
ンアウトサイダー・アート アクセス解析 アスペルガー症候群 ア
ッラー アナーキスト アニミズム アブラハムの宗教 アメリカア
ルカイダ アーコロジー イスラム イラク戦争 イーハトーブ ウェ
ーバー エコロジー オカルト オニババ カトリック カミュ キヤラ
クター キリスト教 キルケゴール ゲゼルシャフト ゲマインシャフ
ト ゲーデル ゲーム ゴシック ゴーストライター サイト サヴァン
症候群 シャーマニズム シーア派 ジェインズ スチューデント・ア
パシーストックホルム症候群 ストレス スポーツ スマホ スンニ
派 スーフイズム セクハラ セロトニン ソクラテス ソーカル事件
チエス チョムスキー テニス テレビ テロリズム デカダンス トラ
ウマトラッド トークライヴ ナショナル・トラスト ニュートンカ
学 ニューロン ニンフォマニア ニーチェ ニート ノスタルジー ハ
イゼンベルク ハイパービルディング バブル バブル経済 パニック
障害 パラノイア パワハラ パンソナリティー障害 ヒトラー ビ

ン・ラディン ピンゲー プログラム プログレ ヘーゲル ベルクソン
ペイガニズム ホルモン ボーア マルクス主義 ミツフィー モスキ
ート音 ヤマトコトバ ヤマト政権 ヤマンバルック ユダヤ教 リニ
ューアル リラックマレイアウト ロハス 一夫一婦 一夫多妻 一水
会 一神教 万葉 三島由紀夫 不安神経症 不安障害 不完全性 不完
全性定理 不条理 不確定性 世界遺産 中華文明 中観 中論 九条良
経 二条派 五族協和 五識 井筒俊彦 交流会 交響曲 京極派 人工言
語 人権 人見知り 人間存在 人間学 仏教 仏教哲学 仏法 仏罰会
社 作曲 俚言集覧 元素 公職選挙法 共同体 共感覚 円周率 冷戦
冷泉派 出産 前兆 労働 勉強会 動物 動物園 勝ち組 十二指腸
潰瘍 危険ドラッグ 即戦力 原子力 原爆 原発 原罪 受動攻撃性 古
事記 古今 古典物理学 同性愛 和名類聚抄 和服 和歌 和歌集 哲学
唯美主義 唯識 因果律 国語学 地名 地球電磁気学 地磁気 地震 地
震学 地震電磁波 夢 大和民族 大学 大川周明 大東亜共栄圏 大都
市 天皇 天罰 女兒退行 女子スポーツ 女性 妊娠 宇宙 宇宙意志
宇宙船地球号 宗教 実存 宮崎駿 宮沢賢治 家元 家族 対人恐怖症
将棋 小保方晴子 少女性愛 少子化 就職活動 山下聖美 岡山 岡潔
岩崎式 日本語 岩崎純一さんに会いたい会 巫女 市民宗教 帝国主義
常用漢字 平安京 年末年始 幼児 庭園 廃墟 建築 弥生 強迫性障害
強迫神経症 強迫観念 弾性波 御嶽山 復興 心の理論 心療内科 心
身問題 性機能不全 性犯罪 性的マイノリティ 性虐待 恋愛 恐怖症
感受性 感性 感覚 戦後 拘禁反応 持続可能な開発 排卵 摂食障害
操作主義 故郷 教皇 数字 数学 数理論理学 文化 文明 新古今 新

宗教 新年 新撰字鏡 日本 日本共感覚研究会 日本大学 日本工業規格 日本庭園 日本語 日藝 旧派 旧石器 明晰夢 昭和天皇 時空時空間配置 暴力 月経 月経異常 未来 本居宣長 東京 東京バベルタワー 東北地方太平洋沖地震 東日本大震災 東洋 松本孝幸 染色体格差 植民地主義 植物 植物園 歌学 歌道 正職 死刑 殺人 殺戮 母子関係 母語 民族 氣象学 汚ギヤル 決定論 法人 法華経 津波 清水正満州事変 満州国 無照葉樹林 物理学 猪瀬直樹 王道楽土 現人神 現代物理学 理論物理学 生の哲学 生態系 男女共同参画 男女平等 男性 異性愛 疎外 疑似科学 発達障害 登山 白雪姫 コンプレックス 直観像記憶 相対性理論 知覚 知覚原作権 石原莞爾 社会 神社 仏閣 神秘主義 神経内科 神経症 禅 私には女性の排卵が見える 科学 科学技術 精神医学 精神疾患 精神病 精神病理学 精神科 精神障害 結婚 統合失調症 絶対音感 縄文 美術 老後 耽美主義 聴覚 職業 脳 自動車 自己敗北性 自律神経 自殺 自然 自然人 自然破壊 自閉症 色葉字類抄 花芸術 若者 華厳 落葉広葉樹林 著作 権 藤原定家 藤原家隆 虐待 行動障害 西武 西洋 西洋列強 西洋哲学 西洋文明 親孝行 解離性同一性障害 解離性障害 言語 言語学 言語障害 計算言語学 論文 論理学 論理実証主義 警報 象徴美 負け組 資本主義 超数学 超音波 超音波知覚者 コミュニティ 超高層ビル 路面電車 躁病 身体表現性障害 退廃 退廃主義 違法薬物 適応障害 選挙 郷愁 量子力学 鉄道 閃輝暗点 雅言集覧 離人症 電磁気学 電磁波 音に色が見える世界 音域 音楽 音波 音階 類聚名義 抄 風景 首都圏 高齢化 高齢者 鬱（うつ）

dsM DV ICD ISIS (イスラム国) PTSD いきょうの病 アウフヘーベン アスペルガー症候群 アニミズム アメリカ アルコール依存症 イスラム教 イスラム過激派 イタコ イラク戦争 イーハトーブ エラノス会議 エロス エロテイシズム オウム真理教 カトリック教会 カブグラ症候群 カルト キリスト教 キルケゴール クルアーン ゲマインシャフト コタール症候群 コモン・センス サピア シガチョフ 事件 ショーペンハウアー スンナ派 ソビエト帝国の崩壊 ソビエト連邦 ダーウイニズム ダーウイン チェチェン紛争 チョムスキー ツアトウストラ テロリズム デカルト ポストラウマ トラン スニーチェ ハイデガー パニック障害 パラオ パーソナリティー 障害 ヒステリー フェミニズム プロトアイデンティティ ヘーゲル ベルクソン ポルターガイスト事件 マスキュリニティー マックス・ウエーバー マルキシズム マルクス モンロー ヴァギナ ヴィーコー 卵性双生児 三島由紀夫 三木成夫 不安障害 中村雄二郎 中沢新一 主題優勢言語 乙武洋匡 九鬼周造 乳幼児総共感覚者説 五感 井筒俊彦 人工言語 人格 人間以前 人間学 人類 今西錦司 仏教 信仰 個体 優生思想 先天性四肢欠損症 共同体 共同幻想 共感覚 共感覚原帰属性仮説 共振 共産党宣言 共通感覚 共通感覚論 内臓典 内臓 力への意志 動物 北一輝 単極性障害 印欧語族 危険ドラッグ 即非の論理 原帰属性 原風景 古事記 古代 古代ギリシア 古代吉備王国 古代形象 古典 吉本隆明 和歌 和辻哲郎 哲学 唯物史観 唯識 唯識無境 回避性人格障害 国体 国柱会 国民 地下鉄 サリン事件 境界性 パーソナリティー 障害 多重人格 大乘 大川周明

大社 大阪 大阪都構想 天照大神 天皇 太平洋 女性 妄想性人物誤
 認症候群 妄想性障害 子宮 学習障害 安倍政権 宗教 宗教学 実存
 実存主義 実存哲学 宮沢賢治 寄生虫 对人恐怖症 对女性共感覚 对
 幻想 小室直樹 少子高齢化社会 少年法 山本五十六 岡山 岩崎式日
 本語 左翼 巫女 巫女神道 弁証法 強迫性障害 心因 心理学 心的外
 傷後ストレス障害 (PTSD) 心的現象論 性同一性障害 性器 性被害
 恐怖症 悲劇 意識 意識と本質 感性 憑依 憑依障害 憲法 憲法制定
 権力戦後 折口信夫 排卵 摂食障害 改憲 文化人類学 文化結合症
 候群 文明の生態史観 斎の巫女 斎王 新宗教 新形信和 日本 日本
 巫女史 日本書紀 日本的共感覚人間学 日本的情緒 日本的靈性 日
 本語 日蓮宗 普遍文法 暴力団 曹洞宗 月経 木村秋則 本質 東京裁
 判 東條英機 東洋 東洋哲学 根原形象 梅棹忠夫 橋下徹 止揚 民俗
 学 気分障害 永劫回歸 法華經 浄土真宗 無心 熊谷晋一郎 狐憑き
 猟奇殺人 理想郷 生命記憶 生態学 生成文法 男性 異性 発達障害
 相互変身症候群 知的障害 石原莞爾 社交不安障害 社会民主連合
 祈禱性精神病 神がかり 神事 神宮 神社 神経症 神道 禅 私には女
 性の排卵が見える 種村季弘 精神疾患 精神鑑定 精神障害 純粹経
 験 細菌 経済学 統合失調症 美学 胎児 脳性麻痺 膠着語 自己分身
 症候群 自我 自殺 自然 自然学 自然言語 自閉スペクトラム症 自
 閉症 色彩 芸妓 虐待 複雑性 PTSD 西洋 覚醒剤 解離性健忘 解離
 性同一性障害 解離性障害 言語 言語アラヤ識 言語学 許嫁 警察犬
 護憲 資本論 身体内協応構造 身体化障害 身体外協応構造 身体表
 現性障害 身体障害 転換性障害 農民 進化 進化論 運命愛 過換気

部落差別 金田一京助 鈴木大拙 阿部仲麻呂 阿頼耶識 陰陽師 集団
 ヒステリー 離人症 音に色が見える世界 風土 高橋文二 鬱 (う)

第二部 科学技術、産業用語

.htaccess 3DCG android Blender BSD CG CGI CIA CIRO cms
 Core CPU CSS DARPA debian e-Japan Excel F1 Facebook FAT
 FBI Flash Formula E ftp Google Google Analytics google api
 Google Chrome Google+ GP2 HDD HTML http IDE Internet
 Explorer iphone IT 戦略本部 JAVA JavaScript jquery Linux
 Microsoft Microsoft Edge mixi Mozilla Firefox NAVER 株式会社
 Netscape NISC NSA NSB NTFS Office OneDrive OpenGL
 OpenSSL Opera OS P2P PDF Pentium Perl PHP PRISM RAM
 Serial ATA (SATA) Sketchfab SketchUp Skydrive SNS ssh SSI
 SSL SUICA Telnet Three.js Twitter Ubuntu UC Unix UNIX 系
 USB V6 ターボ Webalizer WebGL wiki Windows Windows 10
 Windows 7 Windows 8 Windows 8.1 Windows XP Wordpress
 XHTML xml XSS XSS (クロスサイトスクリプティング) youtube
 アクセス解析 アルゴリズム インディカー エンジン サーバーシ
 ユーマット ハスマートフォン セキュリティ タブレット デイストリ
 ビューション デバイス ハートブリード パソコン ファイルシステ
 ム フェラーリ フェリペ・マッサ フォーマット フォーミュラ ブラ
 ウザ ブルートフォース アタック プログラミング 言語 プロバイダ

マルウエア マークアップ言語 ユビキタスリニユーアル レギユレ
ーション レスポンシブデザイン レッドブル 人工言語 外付け
HDD 岩崎式日本語 検索クエリ 物理学 理研 聴覚 著作権 言語学
論理値 超音波 電気自動車 音域 音波